

経理部平社員のUSCPA 資格取得まで

H.N さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

合格の鍵は間違えた問題の論点ノート！

Y.O さん FAR: 不明、BEC: 不明
REG: 不明、AUD: 不明

基本をおさえてとにかく繰り返す学習方法！

匿名希望 さん FAR: 2回目、BEC: 3回目
REG: 2回目、AUD: 2回目

合格後の明確な目標を持つこと

中井 広樹 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

日本の会計士がUSCPAを学習することのメリット

石塚 恒雄 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

暗記ではなく、体系的な理解を重視した講義がTACの魅力

嶺 教文 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 2回目

公認会計士プラスU.S.CPAで、今後IFRSの知識が重要となる時に対応できる力が備わりました！

大滝 直道 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

仕事だけでは見つけられなかった得難いものを手にしました！

匿名希望 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

IT系のUSCPA挑戦

杉本 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

早起きして合格しました

匿名希望 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

一念発起して受験を再開！朝時間を活用して合格を勝ち取りました！

S.N さん FAR: 2回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 4回目

夜と土日の勉強で何とか合格

匿名希望 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 2回目、AUD: 1回目

科目合格の時点で正社員として就職！実務経験を積んで真の会計人になりたい！

萩原 万佑子 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 3回目

ドタバタ受験記

飯田 さん FAR: 2回目、BEC: 1回目
REG: 2回目、AUD: 3回目

ROUTE99（本科生）はペースメーカーとして最適でした

匿名希望 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

シニア社員のU.S.CPA受験

滝川 雅直 さん FAR: 3回目、BEC: 1回目
REG: 3回目、AUD: 4回目

チュウツマ合格体験記

A.D さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

合格後の達成感は格別！TACとベッカーを信じてガンバルのみ。

Y.S さん FAR: 2回目、BEC: 1回目
REG: 2回目、AUD: 1回目

わかりやすい講義とBeckerがTACの魅力

富安 信志 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 2回目、AUD: 3回目

細切れの時間を大切に！こつこつと努力を積み重ねて合格！

岸 賢一郎 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 2回目、AUD: 1回目

TACスタッフのメールに受験生へのハートを感じて感激！

匿名希望 さん FAR: 不明、BEC: 不明
REG: 不明、AUD: 不明

できる問題を確実に得点する！！

黒田 康平 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

諦めないこと！

塚原 慎二 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 1回目

自分自身への悔しさをバネに、諦めず、ねばり強く挑戦！

石原 大輔 さん FAR: 2回目、BEC: 1回目
REG: 2回目、AUD: 2回目

知識を身につけることによる驚きや、わくわく感を楽しみながらの受験勉強を！

匿名希望 さん FAR: 1回目、BEC: 1回目
REG: 1回目、AUD: 3回目

取れるところを確実に取る！

A.U さん FAR: 不明、BEC: 不明
REG: 不明、AUD: 不明

他の会計士との差別化を目指して

福留 聡 さん FAR: 1回目、BEC: 2回目
REG: 2回目、AUD: 3回目



経理部平社員のUSCPA資格取得まで

H.N さん

1981年5月生まれ
早稲田大学 2004年度卒業
勤務先：製造業

2010年11月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：86点（2009年11月／1回目）、BEC：78点（2009年11月／1回目）
REG：85点（2010年8月／1回目）、AUD：81点（2010年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

入社以来経理部（受講開始時は3年目）で仕事をしており、日々の業務に必要な会計の知識は必要に応じて勉強していました。そんな中で、一度体系的に会計の勉強をしておきたい、と考えたのがUSCPA試験に興味を持ったきっかけです。また、もともと海外で仕事してみたいという希望もあったので、この機会に英文会計の知識もあわせて習得できれば一石二鳥と考えました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

経理部に所属。日商簿記2級、TOEIC885点。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

複数社から資料を取り寄せ、説明会にも参加してTACに決めました。決め手は、①コストの割に講義数が多いこと、②米国で評価の高いBECKERと提携していること、です。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

何と言っても、ホームページ等を書いてあるとおり、講義のときに講師の先生が仰るとおりに勉強していたら、受かったということです！ただし、怠けてしまう自分に抗して言われたとおりに勉強するのは簡単なことではありませんでしたが…

あとは、どの講義・教材でも、メインは点が取りやすいところの説明をしつつ、その他の論点も万遍なく勉強できた点です。もともと体系的な知識を学ぶのが目的ですから、試験に出にくい論点であっても一通り抑えられたのが良かったですし、勉強を進めていく上でのちょっとした疑問も少なく済んだのではないかと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。学習時間は1000時間程度だと思います。期間はちょうど2年かかりました。当時私の残業時間は月50時間くらいで、平日に少しと休日にしっかり勉強していました。試験前3ヶ月くらいは土日ほとんど遊ばず勉強していました。今振り返ってみると、自分のライフスタイルで合格までに2年かかったのは、ちょうどそんなものかと思います。本人の意気込みや、それまでの経験にもよるでしょうが、1年で4科目合格するのはかなり大変だと思います。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

どの科目も、DVDを見ながらテキストを学習し、1科目終わったらBECKERの問題集に取り組む、という学習方法でした。BECKERの問題が全然理解できない場合は、DVDとテキストに戻って再学習しました。どの科目でも、BECKERの問題は最初に見たときは必ずいぶん難しいと感じることが多かったのですが、同じような問題を数問解くと、慣れてくるのか解きやすくなっていきました。経理での実務経験があるので、FARとAUDについては会計の初学者の方よりイメージが掴みやすかった分、多くの時間をBEC、REGの勉強に当てられたと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は、公証人役場に行ったり、郵便為替を送ったり、わかりにくいウェブサイトに登録をしたりと、慣れない手続きが多く不安でしたが、TACのマニュアル通りに進めて、特に問題なく済ませることができました。受験は、グアムとハワイでした。試験前はほとんどホテルの部屋で勉強していましたが、折角リゾートに来たのだからと勉強の合間に海で少し泳いだり、ジョギングしたりして気分転換にも努めました。試験中は、2つ目以降のテストレットで、どうしても「さっきのテストレットより簡単になった気がする…」と不安な気持ちになったりしましたが、なるべく気にしないようにして目の前の問題に集中するようにしました。本当は1回2科目、2回の試験旅行での合格を目指していましたが、途中で結婚したため色々あり、予定を少し遅らせて、2回目の試験旅行はREG一科目のみ、2回目の試験旅行の3ヵ月後にAUDを受けに行きました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

この資格に合格できれば、会計士としての一通りの知識は身につきますが、その知識を自分なりに活かしていけるようになるには、さらに長い期間が必要です。時間と費用がそれなりにかかりますので、この資格を使って自分がどうなっていきたいのか、よく考えてからの受験をお勧めします。経理・財務畑で私と同じような考えの人がいれば、自分に自信がつかますし、英文読解にも強くなるのでおすすめできます。経理・財務以外の分野の人には、まずはBATIC等で試験の内容を試してからがよいのではないのでしょうか。

合格の鍵は間違えた問題の論点ノート！



Y.O さん

九州大学 経済学部 1986年卒業
勤務先：大手電機メーカー

2010年10月 USCPA試験合格（メイン州）

FAR：76点、BEC：75点、REG：75点、AUD：77点

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現在は経営管理等の仕事をしておりますが、何か専門的知識を身に付けたいと思っておりました。海外に駐在しておりましたから多少英語ができたこと、社内にもUS.CPA取得者が結構いたという事も良い刺激になりました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計については日商簿記2級を取得していました。TOEICは820点くらいでしたが、US.CPAの勉強をして、読むスピードが速くなったと思います。資格取得後に受けたTOEICは885点になっていました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

友人が実際にTACで勉強してUSCPAを取得したという実績と、BECKERという教材が魅力的だったこと、もう1つは自宅からTAC渋谷校が近かったという3点です。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

内田先生と杉浦先生の講義は、迫力があって良かったですね。内田先生の講義は情熱がこもっていて素晴らしかったし、杉浦先生はご自身の実務経験を基盤として講義をしている分、説得力がありました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

学習形態は通学講座を選びました。通信講座はきちんとスケジュール管理をできるかどうか不安でしたので、通学スタイルにして自分のペースを守ろうと思いました。出張などで出席できない講義はDVD補講を活用しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

まず1年間かけて講義を消化してから演習するという方法をとりましたが、後悔しています。当然のごとく、最初の方に受講した内容はどんどん忘れていきますから、講義を聞きながら並行して受験すべきだったと思います。私の場合はすべての受講が終わってからBECKERを最低2回転しました。その後、間違えた問題だけ抽出し、必要があれば英語のテキストにたちかえって復習しました。

また、AUDには苦労しました。何となく解けた気がしたのですが、実際結果が届いてみると不合格。最後の2～3点がなかなかとれなくて苦労しました。どのように対策を立てればよいのか見当をつけるのが難しく、最後には周りの受験経験

者の方に話を聞き、論点を掘り下げることでやっと合格することができました。

お薦めしたいのは間違え論点ノートの作成です。BECKERを中心に間違えた問題のポイントをまとめたノートを作成し、そこだけを集中して試験前日に復習できるようにしておきました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続はトラブルもなく、スムーズにいきました。困ったのは試験会場の予約です。

結果待ちの間にグアムの試験会場はどんどん埋まってしまうし、直前にキャンセルが出ても今度は会社の休みがとれなかったりして、苦労しました。基本的にグアムで受験、予約が取れない時にはハワイで受験という方針でしたが、ハワイは時差がありますから、前日に入るようにはしていても眠くなってしまうことがありました。それから、レンタカーの場合は、いずれも下見をお薦めします。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

受講しながらでも早めに受験して試験の感覚をつかんでほしいと思います。あとは絶対合格するという強い意思を持つことです。そして、働きながら受験する方は1年半の期間がありますから、1科目ずつ受けても良いのではないかと思います。

Q9 勉強したことが仕事に役立っていることは

私の場合ちょうど新しい海外子会社を作るという仕事があり、US.CPAの勉強が大変役にたちました。それから、英語を読むのは確実に早くなると思います。私は職場では3人目のUS.CPA合格者となりましたが、不合格だった時には先に合格している方からアドバイスをもらうことができたりして、社内で新しい世界が広がったということも大切な成果だと思います。



基本をおさえてとにかく繰り返す学習方法！

匿名希望 さん

(41歳)

横浜国立大学 経営学部卒

勤務先：米国系外資系企業

2010年11月 USCPA試験合格（Guam州）

FAR：76点（2010年5月／2回目）、BEC：75点（2009年7月／3回目）

REG：76点（2010年11月／2回目）、AUD：80点（2010年7月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

外資系、特に米国系企業のAccounting/Finance部門ではステップアップにCPA合格はMustであったため（どこの企業もManager 以上はCPA所持者がほとんどかと思えます。）いつかはPassしたいと思っていました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

2003年にPBTの受験経験がありましたが、合格に対する「本気度」も低くとても合格できる状況ではありませんでした。経理実務は既に10年以上数社の外資系企業の経理部門で経験していました。「いつか必ず知識と経験を形に残す」と考えていました。英語についてはTOEICスコア730しかありませんでしたが、実務では常に英語の環境に身を置いています。会計については税理士試験簿記論・財務諸表論レベルです。（TAC 受講・受験経験あり）

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

Beckerと提携していることに非常に惹かれました。米国でもBeckerはメジャーな教材の1つである事は知っていました。また、やはり「会計関連資格はTAC」という信頼感が受講を決めた理由です。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師、サポート、テキストどれも「至れり尽くせり」でしたので合格に向けて安心して「勉強」自体に集中できるところが良かったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信講座を利用しました。特に、Becker passmasterはとにかく繰り返し解きました。本試験で合格できると言われる正解率90%以上までもっていくため、多い科目で5回転はさせていたと思います。期間はTAC受講後延べ3年ほどですが、本腰で準備を始めたのは実は受講期間後であり、それから2年ほどで合格へたどり着くことができました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全科目に言えることですが、基本項目を確り抑えて講義・問題演習共にとにかく繰り返しました。Passmasterにある過去問はほぼすべて解けるまでにして本試験に臨みました。また、Beckerの特徴として問題の解答解説が非常に丁寧なので、できるだけ時間をかけて理解をする機会を必ず持つよう心掛けました。じっくり確認することにより「なぜ正解」なのか、「なぜこのchoiceは間違い」なのかを納得するまで理解するように心がけました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続は比較的スムーズに行うことができました。受験地についてはグアム以外考えませんでした。「時差ぼけ」でエネルギー・時間・お金を無駄にはしたくありませんでした。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

「CPAに合格しよう」と初めて思った時の予定よりだいぶ遅れてしまいましたが、なんとか合格までたどり着きました。またこれを新たなスタートと考え、これからもCPEを通じて知識のUpdateを続けていこうと思っています。

前にも書きましたがとにかく時間が許す限り講義・問題演習共に「繰り返す」というシンプルな学習方法が最終的に合格までたどり着く一番早い方法だと思います。

頑張ってください！



合格後の明確な目標を持つこと

中井 広樹 さん

1983年生まれ (27歳)
慶應義塾大学 経済学部 出身

2010年10月 USCPA試験合格 (メイン州)
FAR : 89点 (2010年2月/1回目)、BEC : 81点 (2010年2月/1回目)
REG : 85点 (2010年10月/1回目)、AUD : 78点 (2010年10月/1回目)

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現在、公認会計士事務所勤務していますが、複数の外国子会社を持つクライアントの会計税務を担当させて頂くようになり、英文財務諸表に触れる機会が増え、英語での会計税務実務及びUSGAAPやIFRSの知識習得の必要性を感じることがきっかけです。英文での会計税務が出来ることと、USGAAPを知っておくことは今後のIFRS導入の流れにもわりやすく、せっかく勉強するのであればきちんとした資格を取っておきたいと思いました。現在の職場ではいろいろな会社の財務諸表を見ることができ、自分自身の見識も広がりますが、職場自体が資格取得を推奨するという点では非常に恵まれているのですが、いずれは事業会社で財務の仕事をしたと考えているので、将来の財務管理や財務戦略にも役に立つだろうと思ったこともこの資格を目指すことになった理由の1つです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計については大学3年生の時に簿記2級を取得し、社会人2年目の時に税理士試験の簿記論と財務諸表論に合格しました。税務の方は4年半仕事をしてきて基本的なことは押さえているつもりですので、会計の勉強をしっかり固めたいと考えてUS.CPAにチャレンジしました。今のところ税理士試験は再開するつもりはありませんが、また必要性が生じた時に再開するかもしれません。

英語についてはTOEICでいうと750点くらいです。大学3年生の秋、ちょうど皆が就職活動を始める頃、流れに沿って受けました。ただ英語はもともと得意な方であったとはいえ、大学卒業以来ずっと離れてしまっていたため、最初は会計専門用語を覚えるのに少し苦労しました。Beckerの問題を解いていくうちに英語の感覚も取り戻していくことができました。仕事において、英語で海外のクライアントと直接会話をするような場面はありませんが、海外に子会社をもっているクライアントの場合、子会社の財務分析をする際に英語が必要になります。財務諸表全体の2割くらいが海外子会社のものですね。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

税理士試験の勉強をしていた時もTACでお世話になっていたため、今回も迷わずTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ (講師、教材、カリキュラムなど)

FARのNPAとTaxの内田先生の明瞭簡潔な講義やまとめノートと、Business Lawの杉浦先生の分かりやすい講義内容が特に印象に残っています。

英語から離れていた期間が長かったので学習前は多少の不安を感じておりましたが、TACの教材は英語と日本語両建ての解説があるので自然に頭に入ってくる感じでしたし、会計の知識ゼロからのスタートでも対応出来るくらい親切かつ分かりやすいものでした。講師の方々は日本の基準も交えて講義してくれたため、普段から特に日本の実務に触れていた私にとっては、違いを理解し易く、有難かったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

平日は仕事があるため、Webで受講しました。授業はどの科目もけっこう早いペースですすみ、内容も濃いので、Web受講でも飛ばしたりせずにじっくりと受講しました。

2008年末に受講の申し込みをしたのですが仕事の繁忙期と重なってしまい、本格的に受講を開始したのは2009年の6月くらいからでした。2010年2月にFARとBECを初めて受験し、2010年10月に残りのREGとAUDを受験しました。学習開始から1年4か月くらいで全科目合格することができ、思っていたよりも早く合格することができてホッとしています。会計の知識がありましたのでFARについては重複部分も多く、学習しやすかったのかもかもしれません。

平日は帰宅後2時間、休日は4~5時間を目安に勉強しました。通勤電車の中はテキストを読んだりする時間に充てていました。

Q6 合格までの学習法 (全般的なこと/科目別)

とにかく問題をよく解きました。講義は最初から1回しか受けないつもりで集中して聴き、テキストの内容の理解もそこそこに、まずは問題を解くことで、その出題傾向を知るのと同時に問題が解けるようになるための勉強が出来るからです。本当は全て理解したうえで問題演習に取り掛かりたいという理想もあったのですが、社会人ということもあり時間に限りがあったため、このような勉強方法を探りました。全科目の講師の方々が講義中に口を揃えてとにかく早い段階から問題を解くようにと言われていたこともあり、本来は完璧主義である私の理想を取り扱う勇気が持てました。

FARについては、最初の受験科目という不安もあり一番勉強時間を費やしました。Beckerの約1,400問の問題集を1回目は全て解き、2回目以降は間違えた問題を正解するまで何回転もやりました。本番では間違えた記憶のある問題がいくつか実際に出題されて、本当にやっておいて良かったと思いました。1,400題と聞くと多いと感じる方も多いと思いますが、やっていくうちに傾向と対策が自然と分かるようになり、だんだん慣れてきますから当初思っていたより早く、2週間弱 (1日100題ペース) くらいで解き終わることができました。FARに限っては会計基準等忘れやすい項目が多かったため、テキストの見直しも定期的に行いました。

BECについては、自分なりのまとめノートを作ったあとは、ひたすらBecker問題を解きました。

Business LawとAuditについても、まとめノートを作って特に試験前にこまめに見直す他は、とにかくBecker問題を解きました。Taxに関しては内田先生のまとめノートがあったので作成の手間が省け、問題を解く時間が特によくとれました。

まとめノートを作成する際には、(1)テキストの読み返しが不要なレベルで、(2)出来るだけ英語で、(3)ポイントを押さえて箇条書き、以上3点を気を配りました。結果、Business LawとAuditは100ページを超えましたが、さらに分厚いテキストを読み返すよりは良かったですし、面倒でしたが頑張りました。Auditのまとめノートには、各パターンのAudit reportのひな型も全て貼り付けて、何度も読むようにしました。本番ではこのAudit reportの中から1つ丸ごと穴埋め形式で出題されたので非常にラッキーでした。このまとめノートの作成はお薦めです。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

グアムで受験しましたが、ホテルから試験会場までタクシーを使ったところ、一度だけ帰りの迎えの時間を勘違いされ、結局1時間以上かけてホテルまで歩くハメになりました。

コンピュータ試験は初めてでしたが、とにかく電子計算機が使いづらかったです。時間のない方もFinal Examなどを利用して、事前にしっかと慣れておいた方が良いと思います。残り時間が少なくなればなるほどあせって打ち間違いが増えるなど悪循環です。数値も計算式も分かっているのに電子計算機の操作でうまくいかないというイライラと焦りが募るだけですから気をつけてください。本試験は長時間の勝負ですが、私はあまり余裕が無かったので休憩時間は取りませんでした。受験会場は冷房が効いていて寒いので半袖姿は避けたい方が良いでしょう。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

試験途中で出来が悪いなと思ってもやけにならずに、最後まで諦めずしっかり答案を埋めることが大切だと感じました。これはどんな試験でもいえることですが、US.CPAの試験においてはとくに顕著であり、本当に最後の最後まで合否はわかりません。実際、手ごたえとして出来が悪いと思っていた科目の方が点数が良かったりしました。問題数も多く、どこが採点されているかなんて分からないのですから、自分が難しいと思った問題は、皆ちできない、採点されていないに違いない、とポジティブに開き直り、自分で決めた時間配分を出来る限り守って最後の問題まで必ず解答するようにしてください。Multiple Choiceの回答のスピードを上げておくために問題演習を繰り返し、Simulation問題に時間を残すことはもちろん大切ですが、仮に時間がほとんど残っていないとしても、とにかく書けるだけ書くべきです。最後まで諦めずに頑張ってください。



日本の会計士がUSCPAを学習することのメリット

石塚 恒雄 さん

勤務先：金融機関
マーケット・投資関連のミドル業務
(計数管理)に從事

2010年10月 USCPA試験合格(ニューハンプシャー州)
FAR：97点(2010年10月/1回目)、BEC：87点(2010年4月/1回目)
REG：97点(2010年4月/1回目)、AUD：94点(2010年10月/1回目)

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

もともと監査法人の国際部門に8年半勤務し、米国会計基準に基づく監査業務に従事していました。その間、米国の提携事務所へ1年半程赴任した経験もあり、USCPA自体は身近な存在でした。しかし、幸いにも関与先に恵まれ、業務のために会計・監査の英文マニュアルを調査することが日常的であり、テクニカル的に十分すぎる位勉強できたため、あえて仕事外でさらに試験勉強をする動機付けはありませんでした。

2008年に現在の金融機関に転職した後は、金融知識が不可欠であることは言うまでもありませんが、会計(日本に限らず米国やIFRSも含めて)、税務、法律等の知識を広く浅く求められるようになりました。これらを網羅的に学習し、自己の知識を全体的に底上げするためにUSCPA試験が最適と判断しました。

また、私の家庭の個人的なことではありますが、妻が出産後、再就職を目指してUSCPAを学習し2009年に合格しました。その後、日商簿記1級に合格した後に、実務経験なしにも拘わらず正社員として就職することができました。そのような努力する姿勢に刺激を受けたことも一因です。

なお、蛇足ながら、旧職の監査法人の1年目の頃(もう10年以上前ですが)、米国会計基準を学習するためにUSCPAの学習を志したことがあります。TACの教室講座に申し込みましたが、仕事に忙しいことを言い訳にして、気が付いたら自然消滅していました。監査現場では広く浅い会計知識ではなく、顧客の直面する問題点に特化した深い知識が必要のため、網羅的な試験勉強をしていなくても、その場その場で調べれば対応できてしまうのです。逆に言えば、この点が実務というものの怖いところだと思います。あの時にFARだけでも合格レベルまで学習しておけば、その後の監査業務での視野がもっと広がっており、より多面的な視点から顧客対応ができたのではと、心残りに感じています。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力はTOEIC 950程度、会計・監査の知識は実務レベルです。

学習した感想としては、かなり英語の読解を要する試験であり、英語力の高低により合格が相当左右されると思いました。換言すれば、合格レベルまで学習することができれば、英語力自体もかなりアップするのではと思います。私も、TACの問題集やBECKERの問題演習にかなり時間を割きましたが、練習をすればするほど読解スピードが速くなることを体感しました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士を目指したころからお世話になっており、妻もお世話になりましたので、他校という選択肢は存在しませんでした。

Q4 TACの講座でよかったところ(講師、教材、カリキュラムなど)

教材がしっかりしていて、通信講座で自宅学習することを前提に詳細に記述されている反面、学習上のポイントが随所にまとめられていてメリハリがつかない点だと思います。カリキュラムとしては、他校に比べて授業数が多いと言われていますが、そもそもかなり学習範囲が広い試験ですので、無理やり暗記する学習方法ではなく、しっかりと理解をしながら学習を進める形態をとる限り、必要最低限の授業数であると感じました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。

REGとBECを合わせて約5カ月、FARとAUDを合わせて約4カ月です。家族や子供との時間が優先のため、1日の平均勉強時間(土日も含めて)は約2時間です。トータル学習時間は約500時間であり、日本の公認会計士合格者の場合(700~800時間が一般的)から英語力と英文監査経験を考慮すれば、平均的な時間数かと思います。

Q6 合格までの学習法(全般的なこと/科目別)

学習方法は、全科目を通じて相違はなく、(1)テキストや授業によって内容の理解をする、(2)TACの問題集でマルチ(MC)の練習をする、(3)BECKERのCDでMCの練習をする、(4)問題練習を通じて発見した理解不足の点をまとめノートに書き込む、(5)MCがある程度仕上がったらBECKERでシュミレーシ

ョンの練習をする、という流れです。各科目ともに試験範囲は広いので、試験直前(特に渡航中の飛行機や現地ホテル)に全体を見直すことができる資料を作っていくことが学習プロセスの根幹になります。まとめノートは、当然ながら自分でイチからサブノートを作るのではなく、内田先生のまとめテキストに書き込む(TAX、NPA)、講義テキストに書き込む(BL)、BECKERのまとめテキストに書き込む(AUD)、市販の米国会計基準本に書き込む(FAR)など形態は様々でしたが、各科目で自分が一番やりやすい方法にしました。また、私の場合、妻の学習ノウハウを利用できたため、妻が書き込みしたテキストやまとめノートを見て、ポイントの把握をするように努めました。

学習の時間管理としては、問題演習を先行させるようにしました。勉強時間が、大体毎日夜11時前後からであったため、テキストを精読すると否応なしに睡魔を呼びます。そのため、ざっと軽く理解したら、とにかく直ちに問題演習をしました。当然ながら全然解けず、青ざめながら必死にテキストを見直すことになりました。精神的には大変ですが、この方法は疲れていても眠くなりませんし、出題のポイントに絞ってテキストの確認ができるので、時間的には極めて効率的です。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

TACではブラッドリー大学の単位試験のおかげで、会計単位を追加取得することができました。NASBAへの受験手続は、TAC受講生サイトに詳細に書かれており、非常に役に立ちました。

受験は2回ともにグアムでした。かなり前から予約をしなくては行けないというデメリットはありますが、飛行機で4時間弱であり時差もなく便利な場所だと思いました。現地情報もTAC受講生サイトにあったため、事前に確認しました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

最近、日本の会計士でUSCPAの勉強をする人が多くいると聞きます。おそらく、監査法人内部での人員余剰による昇進競争激化により、何らかの差別化を図る方が増えたためかと思います。会計士の自己啓発としては、言うまでもなく、顧客先の監査現場で七転八倒することに勝る勉強はありません。しかし、知識的にも経験的にも充実する4年目前後になり、若干のマンネリ感が出てくる頃には、USCPAの勉強をする好機だと思います。

個人的に感じますのは、日本の会計士がUSCPAの学習をする最大のメリットは、会計基準等を英語の原文で読める英語力を醸成することだと思います。もちろん、米国会計・監査基準や税法・ビジネス法等の知識を深く広く習得でき、その過程で、日本の関連基準も含めて相互理解を高めることができます。しかし、単なる知識の習得であれば、書店で市販されている日本語版の専門書を必要に応じて読めば済むことですし、日本の会計士であれば読んで理解できるだけの素養があるはずですが、多忙な日常の中で多くの時間を費やし、大量の英文と格闘することで得られることは、会計基準や海外事務所の英文マニュアル等や英語の原文のまま読解するための基礎的な素養です。もちろん、USCPAの合格レベルに達しても、全ての会計・監査・税務基準を英文ですらすら読める訳ではありません。でも、苦勞して合格することによって得られた自信と英語力によって、少なくとも英文へ恐怖感がなくなり、日本の法令を小六法で調べると同じような感覚で英語の原文に入っていくことができるはずです。

米国会計基準業務に従事してきた経験で申しますと、英語の基準の行間を読むことは、原文を読むことが必須であり、どんなに巧妙な日本語訳を用いても無理だと思います。これは、英語と日本語の会計専門用語の微妙なミスマッチに加え、ビジネス慣行や法令体系の背景的事象の相違等にも起因します。そのため、会計・監査・税務・ビジネス法を全般的に学習することは、英語の原文を読む上で必須です。私が冒頭で、監査法人勤務の最初の頃に勉強していれば、その後の自分の視野の広がりが大きく違っていたら、と後悔混じりで述べたのは、米国の会計基準の実務をしながら屋台骨である背景的理解が万全でなかったため、見えるべきものが見えなかったという意味です。

今後の会計界の課題は、原則主義であるIFRSの実務への応用です。監査する会計士も、企業内会計士も、原文(英文)で基準の行間を読み、会計理論的背景を考慮しつつ個々の処理判断をしていくことが必須と考えます。

私の現在の業務は金融機関における投資関連の計数管理(予算の作成、実績との比較分析、会計税務に関する全般的アドバイス)ですが、USCPAで学習したことは、日常業務にかなり役立っています。投融資の英文契約書を読む機会が多いですが、BLを勉強したお陰で、勉強する前は気がつかなかった法律専門用語の意味が分かったりして、契約内容をより深く理解できるようになりました。また、米子会社の税務では、申告業務を委託している現地会計事務所ポイントに絞った質問ができるようになり、彼らからの回答をより深く理解できるようになりました。また、USCPAの学習でお馴染みのリサーチ(条文検索)の経験を活かして、米国歳入庁のWEBで税務条文を検索し、節税のためのアイデアを考え、会計事務所と交渉し、社内宛にも分かりやすく説明できるようになりました。自分の視野が大きく広がったことを実感する毎日です。



暗記ではなく、体系的な理解を重視した講義が TAC の魅力

嶺 教文 さん

1978年生まれ
神戸大学 経済学部経済学科卒
都市銀行、外資系証券会社投資銀行部門を経て
現在国内大手証券会社投資銀行部門勤務

2010年 USCPA試験合格（アラスカ州）
FAR：85点（2009年／1回目）、BEC：75点（2009年／1回目）
REG：79点（2009年／1回目）、AUD：79点（2010年／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

外資系証券会社に在籍していた時、海外を舞台に活躍する多くの方々が、業務と直接的に関係ないものの、基本的な知識として会計士、弁護士、MBA等を有していたため、その土俵に入りたいという思いで資格取得を目指しました。また、ビジネス英語に苦手意識があったので、米国公認会計士の学習を通して英語力を向上させたいと思ったことも資格取得を目指すきっかけの一つです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

2005年にTOEICを受験し、860点程度でした。会計の知識は銀行で勤務していた時に少し財務諸表を見ることはありましたが、体系的な知識はなく殆どゼロの状態でした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

仕事の都合上、継続的に講義を受けることは困難でしたが、TACにはビデオ講座があり、講義の聴講が柔軟に行えたこと。また、講座終了後のフォローアップ制度も充実していたためTACを選びました。実際に、TACに入学したのは2004年でしたが、その後、転職や転職で4年程勉強することができず、2009年から学習を開始。その時にも低コストでテキスト購入や講義の再聴講ができて助かりました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

暗記ではなく、体系的な理解を重視した講義であったこと。そのため、講義ビデオをただ見ただけで、各試験科目の全体像が理解できました。米国公認会計士の試験では細かな部分の暗記よりも、4科目を、満遍なく体系的に理解することが合格への近道だと試験合格後に実感しております。

特に、TAX及び公会計については、内田先生の直前対策の内容を理解しておけば、十分に合格点を取ることができると思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。TACを選んだ理由にて記載させて頂いたとおり、仕事上、継続的に通学することが困難なため通信を選択しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全ての科目において以下の手順で学習しました。

- (1) ビデオ講義を見て、全体像及び論点を理解。
- (2) テキストを読み直し
- (3) 問題集を解く（2回）
- (4) ベッカーのマルチ問題を解く（3回）
- (5) シミュレーション及びプレテストを解く（2回）

各科目ともそれぞれ3～4ヶ月程度で学習しました（平日2時間、休日10時間程度学習）。TACの教材で試験は十分対応できると思います。私は、1科目ずつ勉強してしまいましたが、各科目は有機的に繋がっているの、できれば4科目一通り学習した方が試験時に応用が利くと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続については、問題なく行えました。

受験会場は親戚が住んでいるロサンゼルス周辺を予約しました。試験会場は前日までに見ておくことをお勧めします。というのも、試験会場は場所によっては、住宅街の中にあたり見つけ難いことがあるからです。また、時差ボケにならないよう私の場合、渡米前日から米国の時間に合わせた生活リズムに変更していました。

受験時に注意することは、時間配分だと思います。第1テストレットがそれなりにできると、第2以降のテストレットの難易度が上がりますが、分からない問題で時間をかけてしまうと、シミュレーションの時間がなくなってしまう恐れがあります。分からない問題は捨てる勇気も必要だと思います。

特に、REGは時間がタイトなのでご注意ください。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

受験を通して個人的に感じたことを以下にアドバイスさせていただきます。

- (1) 合格までの学習方法で記載させて頂いた学習が終わった段階でまずは受験することをお勧めします。ベッカーが8割～9割程度できていれば、本番の試験はそれほど難しく感じないと思います。高得点での合格を目指すのなら話は別ですが、合格を目的とする場合、あまり細かな部分に時間を取られる必要はないものと感じております。
- (2) 1年程度の短期間の合格を目指すことをお勧めします。米国公認会計士の問題は比較的基本的な問題ではあるものの、学習すべき分量は相応にあるので、私の場合、短期間で頭に詰め込み、知識量がピークの時、試験に挑みました。
- (3) 継続的に学習することをお勧めします。先述のとおり、短期間で頭に詰め込むには、学習期間中、絶え間なく学習することで記憶を定着させてことが重要と考えます。また、もし試験に落ちたとしても、米国公認会計士の試験は年間4回受験できるチャンスがあることから、諦めずに努力し続ければ必ず合格できる試験です。

Q9 現在のお仕事内容など

現在は、日系大手証券会社の投資銀行部門に在籍しております。主な業務は、債券の発行業務になります。直接的には、本試験との関連はありませんが、税制、会計処理などを調べる際に、勉強した内容が生きてくることがあります。また、試験後、英文の契約書等を読むことに抵抗がなくなってきたことも感じております。



公認会計士プラスU.S.CPAで、今後IFRSの知識が重要となる時に対応できる力が備わりました！

大滝 直道 さん

1988年7月生まれ（22歳）
早稲田大学 政経学部政治学科 4年在学中（2011年3月卒業見込）
勤務先：大手監査法人入所予定
2009年11月 公認会計士試験合格（大学3年次で合格）

2010年10月 USCPA試験合格（アラスカ州）
（大学4年次で合格）
FAR：87点（2010年10月／1回目）
BEC：82点（2010年10月／1回目）
REG：89点（2010年10月／1回目）
AUD：81点（2010年10月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

昨年、日本の公認会計士試験に合格した時に、卒業まで1年間自由な時間があつたため、語学学習に力を入れようと思いました。そして、英会話スクールの体験レッスンに行ってみたのですが、自分にはやはり資格の勉強の方が肌にあっていいると思ひ、U.S.CPAを目指すことにしました。就職後数年は、スピーキングやリスニング能力よりもリーディングやライティングのスキルの方が重要だとアドバイスを頂いたこともU.S.CPAを目指すきっかけとなりました。受講前は、英語系資格であるCIAとU.S.CPAどちらにしようか迷ったのですが、勉強の厚さの面、そして将来は国際事業部で仕事をしたいという目標があつたためU.S.CPAを目指すことにしました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力はTOEICで600点前後くらいでした。また、英語に対して苦手意識が強かつたと思ひます。会計の知識は日本の公認会計士試験に合格した直後でしたので、苦手意識は持ちませんでした。U.S.CPAの受講期間は10カ月くらいです。

Q TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士試験でもお世話になりましたから、迷わずTACを選びました。

Q 実際にご受講いただいて良かった点は？

自習室として渋谷校、池袋校、新宿校といろいろな校舎が利用できるという点がとても魅力的でした。さらに、Beckerの問題集が使いやすい、合格の手助けとなりました。

Q 受講形態について教えてください。

通学DVDで受講しました。12月の終わりに学習を開始したので、夏入学コースを選択して通学DVDで受講しました。

Q 合格までの学習方法について教えてください。

まず、一般的な学習方法に関してですが、問題集は2回転しました。受講期間内に1回目、授業で習った該当論点についてBeckerも全て解いて、初見で解けた問題は×をつけて消していき、解けないものや直前に暗記する問題にはマーカーをひいておきました。そして、2回目として、試験直前2週間前はそこだけ解きました。U.S.CPA試験は直前の詰め込みが一番大切だと思ひます。

次に、科目別の学習方法に関してですが、FARとBECのMA(管理会計)とBS(米国組織法)は講義が終わり次第すぐにBeckerのMultiple Choice(四択)問題を解きました。FARに関しては、BATICの試験対策としてU.S.CPAのテキストを読み込みましたので、試験直前には大きな貯金となりました。ECO(経済学)とITは試験直前まで全く触れず、直前に一気に詰め込みました。苦労したのがREGです。全体の学習時間の半分くらいをTaxとBusiness Lawにかけました。Taxは内田先生の直前対策まとめに必要な情報は全てまとめておき、試験直前に復習しやすいように整理しておきました。Business LawはTaxに比べ出題数が少ないため、重要な論点のみを学習するのに留めました。

Q 短期合格のための具体的な勉強方法を教えてください。

受講期間10カ月間は毎日1日のうち2~3時間は勉強のための時間を確保しました。日本の会計士試験と違ってU.S.CPAはほとんどMultiple Choiceです。体系的な理解も重要だと思いますが、試験合格ということのみを考えると、論点ごとに学習することが効率的だと思います。そのため、10分~20分の細切れの時間を使って、1つずつ論点を学習していくことが重要だと思います。私はMultiple Choice対策に時間を費やした代わりに、Written CommunicationとSimulation対策は全くしませんでした。Multiple Choice対策をしておけばほとんどの論点をカバーできると思ったからです。ただ、操作の方法を確認するために、BeckerのSimulation対策を数問解きました。そして、Written Communication対策は試験前日に保険として一読しておき、頭に漠然と残して部分点をとろうという作戦で試験に臨みました。

最も役に立ったのが、試験直前にやる論点に付箋を貼っておいたことです。私はTaxやAuditに関しては細かい論点まで押さえないと不安だったので、試験前日に復習するべき論点に付箋を貼っておきました。

それから私の場合、在学中の受験ということで追加単位が必要だったので、TACの単位認定試験プログラムで15単位取得し、アラスカ州で受験しました。TACのUSCPA講座受講生情報サイトには単位認定試験の過去問が2年から3年分ありますからそれをカバーしておけば絶対大丈夫です。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

学歴審査が思ったより遅くて困りました。最初は8月末に受験を予定していたのですが、学歴審査に時間がかかって結局10月末に受験となってしまいました。NTSがおそらく来ないであろうと予測して毎回メールを送っていたら、意外に早く来ました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPA試験は、試験直前の学習と試験中のモチベーションが重要だと思います。初日の試験はFARでしたが、受験した直後は確実に落ちたと思ひました。しかし、実際にはFARは4科目中2番目の得点でした。一方、自信のあつたAUDは4科目中1番得点が低く、試験中にできなかったと感じた科目の方が点数は高い結果となりました。これは、テストレット毎に難易度が変わることやサンプル問題などの影響からだと思ひます。そのため、試験中に難問が出題されてもあきらめないことが重要だと思います。

Q 実際のお仕事の面でU.S.CPAの資格は役に立ちそうでしょうか？

U.S.CPA試験の勉強を通じて、英文に対して苦手意識がなくなったことが大きな成果だと思います。今ではAICPA(米国公認会計士協会)のサイトを見ることで会計に関する情報を自ら収集することができるようになりました。また、今後IFRSの知識が必要となるときにも、最新の情報を常に収集して理解することに役立てたいと思ひます。

U.S.CPAの資格を得ただけでなく、英文会計に慣れたこと、将来の視野を広げることができたことも大きな収穫です。

仕事だけでは見つけられなかった得難いものを手にしました！



匿名希望 さん

2010年8月 USCPA試験合格（メイン州）

FAR：79点（2009年5月／1回目）、BEC：77点（2009年8月／1回目）

REG：80点（2010年4月／1回目）、AUD：78点（2010年8月／1回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

現在の仕事は財務会計に関する仕事ですので、実務で頑張る以外にも自己研鑽をしたかったということ、職場の同僚にU.S.CPA試験を受けて合格している方が何人かいて、刺激を受けて自分もやってみようと思ったのがきっかけです。当時、財務の部署中の約半分くらい、だいたい4名くらいがU.S.CPAや日本の公認会計士等の有資格者でした。自分もこのような部署に入ったからには頑張らなければいけないと思っていて、それならば、U.S.CPAは働きながらも目指すことの出来る資格でもあり、外資系の企業ということもあって目指し甲斐のある資格でもありと確信してチャレンジしました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

2008年夏頃に受けたTOEICでは800点くらいでした。会計の知識につきましては簿記2級を取得していました。まずはTACの講座で簿記2級にチャレンジして、合格したらU.S.CPAの方に進もうと考えていました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

実は簿記検定講座以外にも、証券アナリスト、PCスクールなど全てTACの講座で勉強してきました。TAC一筋でしたから、U.S.CPA受講の際にも迷うことなくTACを選びました。

Q 実際に受講いただいて良かった点は？

なにより講師がすばらしかったと思います。知識も十分ですし、教え方もたいへん分かりやすかったです。試験対策上、出題されやすい問題をかなり詳しく分析して、試験対策用に時間のない人にも出来るようなマテリアルを作成してくださる先生もいらして、時間のない私には大変参考になりました。素晴らしい教材をご用意頂き感謝しています。また、業務で会計に携わっていますから講義を聴くこと自体が自身の仕事に役立つ、非常に有効でした。

Q 特に印象に残っている講師は？

基本的にどの先生も良かったと思っておりますが、財務会計の平石先生の授業では自分の業務を深めていくことができました。他にもTax内田先生、Business Law杉浦先生、Audit田中先生などが印象に残っています。内田先生は講義も素晴らしいですし、試験対策という意味でも、あれだけ広範囲のものをコンパクトにまとめる力量はさすがです。試験情報なども大変役に立ちました。

Q 受講形態について教えてください。

受講形態は教室通学で、週末に週1回教室に通いました。まずFARとBECの生講義を受講しまして、その後半年間は受講をお休みにして試験勉強に専念し、試験を受けてから次の科目にとりかかりました。時間がなかったので小刻みにスケジュールをたてることにして、FARとBECの受験を終えたところでREGの受講を開始しました。REGは通学でしたが、生の講義ではなくDVD通学のスタイルでした。REGのBusiness LawとTaxを受講した後には勉強しまして受験し、最後の科目AUDに進みました。AUDも渋谷校や新宿校のDVD通学で受講しましてその後受験勉強という流れで受験に臨み、最終的に2年かかって全科目合格しました。私の場合受講期限が切れてしまってTaxとAUDは再受講扱いになりましたが、再受講は通学ですと、実質テキスト代だけで済みましたので大変助かりました。

Q 学習方法について教えてください。

とにかくTACで与えられた教材だけで勉強しました。授業を受けてから次週の講義までは、まずTACの問題集にトライし、テキストを読み返しました。科目を通して一通り授業が終了したら受験までにBeckerのMultiple対策用の問題を3回は回すことを目標にしていたのですが、結局のところは時間無くて2回が精一杯でした。仕事も忙しかったですし、子供もまだ小さいものですから、なかなか家で勉強する時間を確保できなくて、通勤時間を活用していました。朝はラッシュで無理でしたが、帰りの通勤時間1時間は、受講期間についてはテキストを読み返し、受験勉強専念期間は問題集を切り離して問題演習に励みました。効率的だったかといわれると疑問ですし、皆さんに有意義な情報になるかどうかわかりませんが、他に時間を見つけることが出来なくて仕方が無かったというのが現実です。合格体験記を読んでいると、小さなお子さんを抱えながら勉強なさっている方の頑張っている姿などがWebに載っていますから、時々見て刺激を受けて「自分も頑張ろう」と自分を鼓舞していました。BeckerのCDの模擬試験はほとんどやりませんでした。直前期にはそれをしないとSimulation対策ができないので手

をつけてみたという程度です。論述対策もあまりできなくて、一応どんな問題が出題されているかをチェックし、それに対する解答などは軽く読み流す程度で、本格的に論述対策のために時間をさくということまではしませんでした。やはりMultiple対策中心になってしまいましたね。

Q トータルの勉強時間はどのくらいでしたか？

一般的にトータルで1000時間、週20時間、と言われていますがTACの授業時間300時間と、科目によっても異なりますが、やはり平均して週12くらいは勉強したように思います。やはり1000時間くらい、平均的なところですよ。

勉強時間については、正直インタビュー時までには自分自身でよく振り返っていませんでした。今改めて思い返し分析すると、以下のようになるのではないかと考えた次第です。

上記の「一般的にトータルで1000時間、週20時間」というのは1年で全てを終えた人の場合だと思っておりますので、私の場合は週10時間前後になります。（もちろん上記の通り12時間で掲載されて問題ありません）

下の内訳は全く掲載する必要はありませんが、ご参考までに。

期間2年

(1) Input (TAC授業と復習の時期) 賞味1年

• TAC授業 300時間

• 復習150時間 (自宅と電車合わせ3時間/week x 50week)

計450時間

(2) 試験対策 賞味1年

• 通勤電車250時間 (5時間/week x 50 week)

• 自宅 (通常時) 200時間 (4時間/week x 50week)

• 直前期 (追加発生分) 100時間 (25時間 x 4教科)

計550時間

(1) + (2) = 1000時間

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

事前にわからないことや不安な点は事務局の方にあらかじめ伺っていましたので、受験手続きで特別困ったことはありませんでした。しかし最後のAUD受験は大変でした。受験を重ねていき、最後のAUDのために8月の長期休暇願いをあらかじめ会社の方に提出しておいたのですが、いざ休みに入ってもグアムの受験会場のキャンセルがなかなか出なくて焦りました。結局本当に直前まで空かなくて慌ててハワイが1席だけ空いているのを見つけて、ぎりぎりですり込みました。料金の高い時期でしたが2泊4日の弾丸ツアーでやっと受験できました。2月、5月、8月、11月下旬は近い試験会場を押さえるのが大変なので、これから受験なさる方は早めに予定をたてた方がよしいかと思えます。来年から日本受験が可能になれば状況もずいぶん変わってくるでしょうね。もう一つ、会場はかなり寒いです。グアムの受験会場も非常に寒かったという印象がありましたけれど、特に最後に受験したAUDのハワイの会場は特に寒く、しかもAUDは受験時間も長いのですから辛かったです。度胸が無くて試験が始まる前には主張できずに試験をスタートしてしまっただけですが、Multipleはクリックするだけですからもともと寒さに耐えても、Simulationからは実際にタイプしようとしたら寒さで手がかじかんで動かなくなって、「動いてくれ！」と心の中で叫びました。やはり寒さ対策はきちんとしておくべきだとつくづく思いました。寒さに耐えて3時間以上たってしまったからでは指を動かそうと思ってなかなか動かかせませんから、最初に寒いと思ったらきちんと主張してみた方がよいかもしれません。受かったから良かったものの、暑い地域に行くと受験するということが読みが甘かったかなと思って反省しています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAは働きながら狙える資格ですから、結果がついてこない時でも継続することが大切です。また2年3年のスパンで見れば仕事や家族との関係で思うように勉強が進まないこともあるかもしれませんが、諦めずに頑張ってください。

Q 合格を会社の方に報告なさいましたか？

はい、報告しました。祝福されました。

Q 受験で学習したことが現在のお仕事に役に立っていますか？

FARとAUDは仕事の上でかなり役に立っておりまして、勉強して本当に良かったと思います。勉強せずに自分の業務に邁進しているだけでは得られなかった得難いものを獲得することができました。資格取得にプラスして仕事上のレベルアップもできて、やはりこの資格にチャレンジして良かったと思います。

IT系のUSCPA挑戦



杉本 さん

1980年9月生まれ（30歳）
明治大学 政治経済学部 2003年3月卒業
勤務先：ソフトウェア会社

2010年7月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：90点（2010年2月／1回目）、BEC：82点（2010年2月／1回目）
REG：87点（2010年5月／1回目）、AUD：80点（2010年7月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

会計ソフトの開発が仕事です。製品仕様の検討や顧客と接する場面で体系的な知識の必要性を感じるが増えたこと。数年先のIFRS導入を考えたとき、日本基準より米国基準を学ぶほうが良いという判断。グローバル化の進展に伴う英語の必要性。それらの理由によりチャレンジしようと思いました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

TOEIC650点、簿記2級は学生時代に取得済みでした。仕事で会計に触れる場面は多くありますが、経理などの実務経験はありません。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

友人の公認会計士に薦められました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

Beckerは非常に優れたツールです。十二分に活用する価値があると思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

2009年春入学の本科生コースで、出来る限りTAC教室に通って受講、無理な場合はDVDで受講しました。2009年9月から本格的に学習スタートし、20代での合格を目標に学習を進めました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

TACテキストを熟読して理解したあと、TAC問題集、Becker、AICPA公表問題を繰り返し解きました。TACテキストと問題集はカバンに入れて通勤時間を利用して勉強しました。Beckerは自宅PCにインストールし、平日帰宅後および土日に勉強しました。AICPA公表問題は会社の昼休みに勉強しました。

得意分野で確実に点を取りたかったので、効率は悪いですが、あえて全体を回す方法を取りました。TAC問題集は3~4周、Beckerは5周くらい解きました。BeckerはPass MasterとSimulationを繰り返し解き、Final ExamはFARで1度解いただけです。実際の試験に、問題集やBeckerで見たことのある問題が複数出題されましたが、すべて解くことができましたので、無駄ではなかったと思います。

試験1ヶ月前からは、通勤時間では苦手分野のテキスト再

熟読、帰宅後および土日のBeckerはランダム100問とSimulation、会社昼休みは直近のAICPA公表問題を繰り返し解きました。試験前日は暗記に時間を費やし、何よりリラックスが大事と思いグアムのホテル周辺を散歩したりして、無理はしませんでした。

Written Communicationは、時間をかけても費用対効果が悪いと判断し、文章のはじめと終わりの定型文句だけは確実に書ける状態にして、10点中5点取れたらラッキー、0点でなければ良いという感覚で臨みました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続などに関して、TACが豊富な情報を提供してくれますが、おかげでスムーズに進めることができました。初めての経験ばかりで、はじめ不安でしたが、全く問題ありませんでした。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

BECのITについて。私は仕事柄、ITに強い方だと思いますが、それでも理解不能な問題が幾つか出題されました。ITに自信の無い方であれば、なおさらだと思います。ITに関しては、TAC問題集およびBeckerの問題であれば完璧に解ける、で十分と思います。

合格発表の時期について。「CPA」「Score」「Release」などのキーワードで検索すると、アメリカのCPA受験者が利用する幾つかの掲示板がヒットしますが、合格発表の時期を予想しているものがあります。あくまで掲示板であり、不正確な情報が含まれているかも知れませんが、過去の実績（いつ発表されたか）に関する情報も得られますので、次回受験の計画を練るうえで、および精神衛生上、大いに役立ちました。なお、合格発表の時期はWave1、Wave2の2組に分かれるようですが、「早い時期に受験したからWave1」という分け方ではなく、「新Simulation問題にあたった人はWave2」という分け方のようです。

Wave1で結果発表されないと、「当落線上ぎりぎりだから合格人数調整のためにWave2に後回しされたのか」心配になりますが、私も90点合格のFARはWave2でしたし、関係ないと思います。掲示板でも、7月1日に受験したのにWave2になった人もいれば8月後半に受験したのにWave1になった人、Wave2で高得点合格した人を多数見ました。



早起きして合格しました

匿名希望 さん

2010年7月 USCPA試験合格（メイン州）

FAR：89点（2010年7月／1回目）、BEC：82点（2010年5月／1回目）

REG：79点（2009年11月／1回目）、AUD：87点（2009年11月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

学生のころから経理部門での海外勤務の希望をしており、それを満たすためのスキルとしては英語と会計知識がキーになると思っていた。外部に対し客観的にそれらのスキルを証明するためにはUSCPA試験合格が適切だと考えました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級 経理実務は8年程度

英語知識：TOEIC®TEST 800点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

大手ならではの信頼感があったため

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

BeckerのPass Masterは間違えた問題の見直しやチェックがしやすく使いやすかったです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で2005年から学習開始しましたが、半年もたないうちに結婚や海外駐在、子供の誕生、日本への帰任などのイベントが立て続けにあったため長いこと学習を中断していました。ようやく少し時間の余裕が出てきた2009年の1月に再受講制度を利用しBeckerの教材を買ってから再開しました。土日には試験直前以外は勉強時間を割かないようにしており、平日の出勤前1時間半くらいと通勤電車の中での勉強時間が長かったです。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

TAC、Beckerのテキストを流し読みしてから、Beckerの問題集で解く形式をとりました。1回目は最初からすべて解き、2回目、3回目は間違ったところだけを解きました。

その後Pass Masterの問題をランダムに出題されるモードで8割くらいできるようになるまで繰り返しました。科目別には、FAR、BECについては実務で知っている部分が多かったので、先にREG、AUDの合格を目指す方針にして正解でした。順番を逆にしていたらcreditの期日がきつかったとおもいます。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

最初の受験時はグアムの試験会場にしようと思っていたのですが、受験の1ヶ月前に空きがまったくなかったのでやむをえずハワイの試験会場にしました。滞在時間も限られていたため、現地に到着して夕方試験開始になりましたが、やはり時差の調整がきついです。そろそろ合格レベルに達しているだろうと思ってから会場の予約では時期が先になってしまうので、若干完成度が低くても早めに場所だけは押さえておいたほうがよいかなと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験は勉強時間をかければ、得点アップにつながるのでひたすら練習するしかないと思います。どの試験もそうかもしれませんがモチベーションを保てるかが最大のポイントだと思います。合格後の勝利の美酒を鮮明にイメージしてがんばってください。

一念発起して受験を再開！朝時間を活用して合格を勝ち取りました！



S.N さん

(50歳)

慶應大学 経済学部 1979年卒業

営業職

2010年8月 USCPA試験合格（デラウェア州）

FAR：85点（2009年5月／2回目）、BEC：76点（2009年11月／1回目）

REG：80点（2010年5月／1回目）、AUD：81点（2010年8月／4回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

昔の話になりますが、簿記の3級、2級まで独学で勉強して合格し、次に1級を受験しようかどうか迷っていたときに、ちょっと目先を変えて違う資格を探してみようと思いました。皆さんがどんなきっかけでどんな資格を取得しているのか参考しようと思ひ、資格の本などで探したり、いろいろな予備校のガイダンスに出席したりしているうちにU.S.CPAという資格に巡り会いました。面白そうだし挑戦のしがいのある資格だと感じられまして、それが入り口でした。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

私は帰国子女でTOEICでも900点以上をとっていますので、英語に関してはそれほど不安はないだろうと思っていたのですが、勉強をスタートする前に本屋さんで分厚い電話帳みたいなU.S.CPAの問題集を開いてみたところ、自分の簿記の知識と英語の知識では何が書いてあるのかさっぱりわかりませんでした。それで専門のスクールに通おうと決意しました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

TACの相談窓口の方が、とても親身になってアドバイスいただいたのが、きっかけといえば、きっかけでしょうか。始めるにあたって不安になり、細かな通信教育の教材発送の日程を教えてくださいましたら、受講期間中に十数回に分けて定期的に教材が配送されてくるということが分かり、そのスケジュールが決め手となりました。他校の通信講座のように一度に全部まとめて送られてくると、山のような教材がどんと届きプレッシャーに押しつぶされてしまいます。定期的にビデオが届くというスケジュールなら自分もやっていけると思いました。また、探してみると自分の周りにもこの資格を目指している方が2人ともTACで勉強していましたし、自分の昔のオフィスにTACさんが入っていたなど縁があったのかもかもしれません。

Q 実際ご受講いただいて良かった点は？

たいへん分かり易い講義でした。授業がスタートするまでは、ひよっとして講義は全て英語で行われ、あの分厚い電話帳のような問題集を開いた時に感じた威圧感を抱えながら勉強しなければならないのかと思っていましたが、実際の講義が始まり、必要なキーワードをおさながら日本語で解説するというスタイルでたいへん有り難かったです。一通り講義を受けてようやくあの電話帳のような問題集の中にある問題の意味が理解できるようになりました。これから受験される方々も経験されると思いますが、キーワードがでてくると、何を聞かれているのか、ということがわかるようになります。

Q 学習方法について教えてください。

私は営業職で、なかなかまとまった学習時間が取れず、時間の捻出に苦労しました。最初に通信教育を申し込んだのは今から7年ほど前でした。筆記試験の最後の時、一度無理を承知で受験にいきましたが、やはり1科目は70点以上で、あとの2科目は60点台、もう1科目は30点台と残念な結果に終わってしまいました。その後、仕事がかかり忙しくなって勉強から離れていました。3年ほど前、ふと資料をひっくり返し、また勉強を再開しようと思った時に、またTACの受講相談をさせていただきまして、そこでジュリスディクションID（受験資格）がまだ有効かどうかについて伺ったりしたときにスタッフの方から背中を押してもらい、そこから時間を見つけてすこしばかり勉強を再開していきまして。ポロポロになったTACの教材とWileyとBiskの問題集を半々で使用しました。WileyとBiskを使用した特別な理由はありませんで、洋書を販売している本屋さんに行ったらそこにあったという感じです。10年前にTACで受講したことを基礎にして、今度はWileyとBiskの問題集を中心にTACの教材を補助教材としながら勉強しました。問題を解きながらわからないときはTACの教材に戻るようになっていました。税法の副教材のみならず、副教材はうまくまとめられていて、すぐに知りたいところがひけて特に助けになりました。やはり、どうしてもWiley、Biskの解説を読んでわからないところは、たくさんありましたので。

Q 1番苦労した科目は？

AUDITは3回落ちました。勉強していても最後の最後までよくわからなかったのはAuditとReviewの違いでした。大まかなことはだいたいわか

っていても細かい点を聞かれると厳しかったですね。あとはSimulationですね。Simulationについてはどういう問題が出るかわからない怖さがありますし、何が正解なのかははっきりとわかりませんので、勉強の方法が難しいと思います。ただ、4択を勉強して、その正解を何回も紙に書き出して漢字を覚えるのがよくフレーズそのものを覚えたことで、キーワードの使いかたに慣れたのが最後は役にたったと思われる。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続については全く問題はありませんでした。昔受験したときのデラウェアのジュリスディクションID（受験資格）が生きていることが確認できましたので、通常通りクレジットカードで決済しお金を振り込み、番号が来て、予約をして、という手順を踏んで手続をしました。NTSが来るまで一週間程度不安になることもありましたが、問題ありませんでした。一回、8日間たってもNTSが来なかったことがありましたが、問い合わせのe-mailを出したらすぐに「あと24時間以内に必ずNTSを送ります」という返答がきたので、不安になったら、遠慮せずに問い合わせをするのがいいと思います。

グアムやハワイといった日本に近いところで受験する方が多いのですが、私の場合は、予約が取れなくて、サンフランシスコとロサンゼルスで受験しました。2科目ずつ受けて1科目ずつ合格していきまして、合計で5回受験しに行きましたが、結果的に5回全て違う受験会場でした。ただ、試験会場は選ぶべきだと思います。語学センターの中にある試験会場は、生徒さんたちの繰り返す声が聞こえてくるような環境でしたし、かなり寂れた街でこんなところに車を置いていって大丈夫なのかというような試験会場もあって驚きました。サンフランシスコにある市内の受験会場は綺麗だし、静かな環境で受験することが出来ますが、サンフランシスコの郊外やロサンゼルス郊外の受験会場は落ち着かないところが多くてお勧めしません。来年からは日本で受験することが可能になるということですからその点は、これから受験される方々には朗報ですね。

Q 学習されたことが今のお仕事に役立っている部分はありますか？

営業職ですからU.S.CPAという仕事との繋がりはあまり無いかもしれませんが、ただし財務諸表の読み方については勉強しましたから、初めての会社に行ってもその会社の信用度についてはだいたいわかるようになりました。現在の営業の仕事と直接の繋がりはありませんから、会社の中で報告するかどうかということについても、今考えているところで。ただ、国際会計基準への興味は、どこに行っても皆さんあって、いろいろな話題作りに役立ち取っておいに損のない資格だと思えます。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

やはり勉強時間の捻出ということが受験生の一番の関心事でしょうね。通信教育の受講中は、その勉強時間の捻出が1番のボトルネックでした。営業職ですから夜の接待が入ることも多いですし、そのような日々が続きますとどんどんビデオが積み上がっていくこととなります。時間を捻出するため、私は早朝の時間を活用しました。朝4:30頃、冬はまだ真っ暗なうちに起きてストーブをつけ温かいコーヒーを入れて、授業のビデオを見てから会社に行きました。辛かったですが、とにかく届いたビデオが山にならないようにという一心で頑張りました。3年前に再受験を思い立った頃には仕事のペースも自分なりに掴むことができるようになっていましたから、隙間時間を上手に利用することに専念しました。通勤途中はMultiple Choice（四択問題）を解くと決め、朝早く起きたり、今、流行りの民間の自習室を活用し家から離れたところで勉強したり、出身大学の図書館を利用してみたり、とにかく使える時間は全て勉強につぎ込みました。受験前直前1ヶ月は睡眠時間を3~4時間に削って試験に備えました。

受験料だけでもかなり高額ですし、なおかつ今のところ海外で受験しなければなりませんから、渡航費用にもお金がかかる上に様々な事が付随して起こります。受験会場によっては海外でレンタカーを借りなければならぬということもありました。一度の受験でかなりの出費となりますから、行くからにはなんらかの成果を出さなければならないというプレッシャーとの戦いも大変ですね。プレッシャーを上手にモチベーションに変えて頑張ってください。



夜と土日の勉強で何とか合格

匿名希望 さん

勤務先：国内監査法人

2010年8月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：81点（2010年1月／1回目）、BEC：78点（2010年1月／1回目）

REG：84点（2010年8月／2回目）、AUD：77点（2010年1月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

監査法人に合計18年勤務していますが、10年程前から若手のU.S.CPAが入所してくるようになり、日本の会計士とは異なるcultureに影響され、また、当時所属していた監査法人が2ヶ月間の業務停止処分を受けた際に、時間の有効利用と英語力の向上も兼ねて、U.S.CPAを目指すようになりました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語力はTOEIC600点程度で、日本の会計監査経験が14年程ありました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

自分の知る限り、当時よりU.S.CPA試験の為にテキストやカリキュラムが最も充実していた感があり、TACでの受講を決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

通信講座でしたが、DVD、テキストとも、英語力に自信の無い人でも日本語と英語でうまく理解できるように工夫されていると思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信で、累計学習時間は1,000時間程度と思います。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

1. 全般

私は監査法人で日本基準の会計・監査実務を経験していましたが、近年の日本基準はUS基準と大差無くなっている為、U.S.CPA試験でもFARやAUでは内容的にはあまり差異は無いと思います。新たな知識としてはBECのBUSINESS STRUCTUREやREG（BL、TAX）ですが、日本の公認会計士試験を受験している人にとってはそれ程難しい内容ではないと思います。ポイントは英語になると思いますが、前述の通り、TACのテキスト・問題集は英文と日本語を併用しており、何度も読めば自然に頭に入ってくると思います。

ただ分量が圧倒的に多い為、それなりの時間をかけて勉強しなければならないと思います。

2. 時系列

私はROUTE99（本科生）を受講しましたが、最初の3ヶ月間で一通り全てのDVDを見た後、業務多忙や結婚等の

為、2年半程殆ど勉強が手付かなくなってしまいました。その後勉強を再開し、1年でFAR、AUD、BECの3科目、さらにその8ヶ月後に残りのREGに合格しました。

3. 学習

個人的にはBeckerやSimulationは、テキストや問題集をほぼ完璧にマスターした後に、総仕上げと言うかたちで解きました。この方が結果としては効率が良いと思います。TACの問題集もBeckerからの抜粋や、TACオリジナルの問題が数多く掲載されていますが、本試験のMultiple Choiceで「difficult」タイプの問題に対処する為には、出来るだけ多くの問題を短時間で解く訓練を直前期に行った方が良いと思います。

私はREGの1回目の試験で、Multiple Choiceは「strong」（score reportに記載されている）であったにも係らず、REGのSimulation対策問題を事前にあまり練習していなかった為、本試験時のSimulationが恐らく半分も解けておらず、さらにWritten CommunicationとResearch問題は時間が無くて空欄で出してしまった為、73点でfailedとなりました。

Simulationは慣れが必要な為、BeckerのSimulation問題とともに、Simulation対策の問題を直前に全て解いて置くと、本試験にはかなり余裕をもって望めると思います。

又、Written Communicationは英語力に自信が無くとも、空欄で出すことは避けるべきだと思います。

4. 質問メールの利用

通信で一人で勉強していた為、学習方法等、いろいろな疑問が生じてくるのですが、私はその都度、TACのU.S.CPA講座宛にメールで質問をさせていただきました。比較的タイムリーに回答していただけるので、これもTACの利点だと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

私は全て合格するまでに合計で3回GUAMに行き、受験しました。私はあまり外国に行ったことがないのですが、GUAMは日本語も通じるし、比較的安全な場所なので、楽しく受験出来たと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

2011年からは日本受験が可能となり、より受験しやすくなると思いますが、試験範囲は広く、受かるまでにはそれなりに時間と労力が必要です。最終的にはTACの問題集及びBeckerを一通り解ける段階までこなせば必ず受かる試験だと思います。頑張ってください。



科目合格の時点で正社員として就職！実務経験を積んで真の会計人になりたい！

萩原 万佑子 さん

1984年4月生まれ（26歳）
立教大学 観光学部 2008年3月卒業
勤務先：日系企業にて経理担当

2010年7月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：83点（2010年5月／1回目）、BEC：77点（2010年4月／1回目）
REG：79点（2009年11月／1回目）、AUD：75点（2010年7月／3回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学3年生の時4ヶ月程米国オハイオ州に留学をしております、英語はきちんと使えるようになりたいという気持ちがありましたし、会計の勉強が好きで、何か会計分野の勉強をしたいと思って候補を考えていたのですが、US.CPAなら会計と英語の勉強をしたいという両方を満たし、自分にあっていそうと思って選びました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計の勉強については、大学時代にゼミの企業学でベンチャーについてざっくり勉強したとき、簡単な簿記や経営指標について知ることがとても楽しかったし、自分に合っているなという感覚を持っていました。また、新卒で入社した会社でも簿記が必須でしたので、簿記3級を持っていました。

英語力については、TOEICでいうと720点から730点くらいです。大学時代からずっとそれくらいの点数を維持していました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

社会人1年目の時、入社した会社で決算書をみる仕事をしておりまして、TACの税理士講座で財務諸表論を勉強していたことがありました。実際に試験は受けませんでしたが、周りの方にいろいろと伺ってTACを選びました。漠然とですが、先生達の講義スタイル、社風に好感を持っていました。金銭面で教育訓練給付金制度を利用できたということも、TACを選んだ大きな要因でした。

Q 実際ご受講いただいて良かった点は？

私は最初DVD通学で受講を開始し、自宅近くの池袋校と会社近くの渋谷校と半々くらいの割合で通っておりました。とりえず授業は受けるのですが、なかなか米国まで実際に試験を受けに行くモードにならなくて、FAR、BECまでは受講してはいるけれど、受験の準備が整わないという状態が続きました。ある時、教室フリーパス制度を利用し、REGの講義に出席して内田先生のTAXの授業を受講しました。その時に感覚的なものなのですが、試験に向けてどう勉強していったらよいか、受験までどんなふう気持ちは持っていたらよいかということが胸にすっと入ってきました。フリーパス制度を使って実際に生の教室講義を受講することによって、受験のタイミングや受験に対する心構えを捉えることが出来たのは大きな収穫でした。最初にREGとAUDを受験し、REGが受かった直後に試験制度の改正の情報を知って、かなり動揺しました。3科目残してあと1年しかなく、しかも先に受講したFARやBECを既に忘れかけている頃だったので散々悩んだあげく、FARをもう一度受講しようと決意しました。FARの草野先生に試験に向けてのアドバイスを受け、自分の中に頑張ろうという気持ちが出てきて、今まで勉強してきたことや試験に対する自分の気持ちなど全部が一つに繋がりました。

テキストやカリキュラムの内容については、他の学校の授業を受けていませんから比べようもありませんが、教室フリーパス制度などの受講制度や先生方に支えていただいたという点でTACの良さを十分に実感しました。

Q 学習方法について教えてください。

私はまずDVDで講義を受講してからTACの問題集を解き、最後に

Beckerを解くという流れで勉強しました。初めはかなりじっくり勉強していました。例えばMultiple Choiceの問題は1題1分くらいで解かなければなりません、Business Lawなどについては全く知識がありませんし英語力もありませんでしたから、6題に2時間くらいかけるくらいのスローペースで問題を解いていました。どちらかというと講義の時間よりも問題を解くほうに時間をとられていましたね。FARの再受講が始まった頃には、問題を解くスピードはかなり上がっていった、最終的にFAR再受講が終わる頃には講義を受ける時間の方が問題を解く時間より長くなっていったと思います。Beckerは全ての科目をほぼ一通り解きましたが、改正があるということで焦ってしまっていたので、ずいぶん迷いましたが補助問題は解かずに本番に臨みました。ただし、AUDは2回落ちた時点で補助問題にも手をつけました。BeckerについてはBECだけは全ての問題を解くことはできませんでしたが、FAR、AUD、REGについては補助問題以外のスタンダードな問題は全て最低2回解きました。

Q 学習中の苦労話などあればお聞かせ下さい。

予定では1年で合格するつもりが、学習スタートから合格まで1年10か月かかりました。鳥インフルエンザの影響で1度、渡航が数ヶ月遅れたこともありましたが、AUDでは予想以上に苦労しました。本試験ではBEC以外の科目はできると難易度があがっていくと言われてます。FARは工事進行基準が出題され、初めは初歩的なことが一通り問われて一巡すると次に細かいところが問われているのを冷静に判断できました。難易度は上がっていても自分の許容範囲以内で問われれば、Beckerさえきちんと解いていけば対応できます。AUDに関しては私の分析だと英語力に問題があったのではないかと思います。2回目のチャレンジの時は、初めはなんとか解けるのですが急に難しくなった時に、問題に何が書いてあるのかさえ判らなくて、もうだめだと思ってしまい失敗しました。私はそれほど英語が得意というわけではありませんが、AUD以外の科目はたとえ英語の問題であっても、計算問題を解いているという意識のほうが強くて、それほど英語で苦労はしませんでした。AUDだけは唯一英語で問題を解いていることを強く意識させられる科目で、語学の壁にぶち当たったように感じました。最後の最後まで受かったのかどうかわかりませんでした。合格体験記の方達のほとんどが3回目では合格していらしたので、必ず3回目で合格することを信じて3回目の受験に臨みました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

私の場合は比較的スムーズでしたが、1度だけ受験票が来ないということがありました。Maine州だったのですが、U.S.CPA講座のスタッフの方に相談したら、とにかくメールでしつこく催促し続けるしかないということだったので、何回も何回も自分で問い合わせをしました。どうやら郵送にすると遅くなるみたいですね。私はフリーメールのアカウントを使用しているので、きちんと届くのかちょっと不安を感じ最初は郵送にしたのですが、郵送にすると遅くなるということがわかって、メールに添付して欲しいとリクエストしたらすぐに来ましたので、その後はずっとメールにしました。AUDで不合格となった時も1週間くらいで来ましたから、最初からメールにしておけば良かったと思いました。

Q 受験会場はどちらでしたか？

ハワイで3回、グアム1回受験しました。グアムでサーチャージ100ドルを払うのであれば、航空券代のみでハワイに行きたいと単純に思ったということ、インターネットで検索してみたらハワイに日本人専用ドミトリーを発見し、夏休みを利用して受験を考えていたので、試験後のバカンスを含め8泊10日くらいの長期滞在を考えるとやはりハワイの方がお買い得でかつ楽しい！ということでハワイを選びました。グアムで受験したのは個人的な事情でして、誕生日がちょうど試験に向けて最後の追い込みをかけていかなければならない時期にありまして、ふとそれを利用してグアムで受験してみようと思いました。11月5月7月という日程でハワイで受験しましたが、誕生日の記念にちょっと楽しみを入れようと思い、わざと4月にBECだけ受けにグアムに受験しに行きました。

Q 試験会場としてのグアムとハワイはいかがでしたか？

ハワイは試験会場としては、ちょっとゆるい感じがしました。どちらも試験を受ける上で何の支障ありませんが、ハワイはトイレが受験会場の外にありますし、途中で移転したそうですが、治安的にもあまりよいところに試験会場があるわけではありません。タクシーを使って試験会場まで行くとしたら、ハワイの方が安く済むかもしれません。個人的には、快適に受験できたのはグアムであったように思います。

Q 現在のお仕事のうえで勉強したことが役に立っていると感じることはありますか？

転職した会社ではまだ研修中ですが、以前勤務していた会社では英語の会計ソフトを使い、海外との取引が頻繁にあるところでしたので、買掛金でなくAccount Payable という処理をする感じでした。U.S.CPAの勉強を始めてからは、例えば1つ仕訳をきると最終的にどの様に処理されて、どの様に決算書に載っていくのかという流れを自分でイメージできるようになって、途中から自分のやっている業務とその先の処理がすんなりと理解できるようになりました。また会社で行われる処理の中に、内部統制的にはちょっとおかしいのではないかと思うところが見つかったり、Beckerの問題集では内部統制的には誤答となるような処理が社内では平気で行われてしまっているのを発見したり、自分の仕事だけでなく全体の中で自分がどういう仕事をしているのかという広い視点を持てるようになりました。

余談ですが、よく「英語はペラペラなの？」などと聞かれて困ります。英語を読むことについてはずいぶん抵抗感が無くなりましたが、話すとなるとまた別の問題ですから、スカイプで英会話の勉強を始めたところです。

Q 科目合格した時点での就職ということで、就職活動において科目合格への評価はいかがでしたか？

実際には科目合格という時点ではあまり評価されないなと思いました。それは私に実務経験が無いということもあったと思います。この景気ですから、就職はかなり難しく、厳しいですね。日本の企業の中にはまだ、「日本では英語はそれほど必要ありませんから。」というスタンスのところも結構ありました。私が派遣で働いていた会社は、SPCをいっぱい持っていてその決算作業もあり、日々の取引も英語でするような会社でしたので、U.S.CPAに対する評価が高かったのですが、これから経理の仕事始める、スタートラインに立つ、という私にとっては、このままここで働くよりもう少しよい場があるのではと思い、転職活動をしました。その中でU.S.CPAを採用している企業の選考を受けていて、痛感したことはやはり経験を積むことは非常に重要だということでした。現在勤務している会社もなぜ私に内定をくれたのかちょっと不思議でしたが、即戦力としてだけ求められているわけではなく、英語や英文会計に全く無関心だった企業が世界に目を向けるようになり社内にもU.S.CPAを取

りに行く人が現れるようになった時に誰か1人でも社内はこの資格を取得している人がいれば違うだろうという観点で採用してくれたのかなと思っています。本当は英文会計をやるようなところに就職したいという気持ちもありましたが、そういう会社では海外大学卒、U.S.CPA全科目合格、そして実務経験有り、というような人が採用されていますから、私まだまだこれから頑張らなければいけないと思っています。私よりもっと英語が堪能な実務経験豊富な人が採用されているんだなと思ってちょっと心が折れそうになったこともありましたけれど、このご時世ですから就職出来ただけでも幸せだと思っています。

Q 今後の抱負をお聞かせ下さい。

結局私は「ザ・日系企業」という雰囲気のある会社に就職したのですが、これからグローバル展開を目指そうと考えている企業ですので、まず当面は一生懸命経理の実務経験を積んで、そこから少しずつ具体的に自分のやりたいことが見えてくれば良いなと思っています。比較的大きなグループ会社の関連会社での経理の仕事ですから、連結決算などもやってみたいと思いますし、せっかくU.S.CPAを勉強しましたので会社がグローバル展開をしていくときには、どこかに私を配置して欲しいという気持ちがあります。

草野先生に合格の報告にいき、「日系企業に就職することになりました。」とご挨拶しましたところ、「会計で食べていくなら、簿記1級と法人税法の知識は必須。とりあえずU.S.CPAは受かったのだから一度忘れて、受かるかどうかはともかく、絶対にこの2つは勉強しないと！」というアドバイスを受けて、今日はこれから受講の申込みをして帰ろうと思っています。就職活動をしていて、日本の会計士試験、税理士試験、簿記1級、U.S.CPA合格者という順のランクの価値観があることを痛感し、確かにそのとおりなのかもしれないけれど、私だってそれなりに勉強しているのに…とずいぶん悔しい思いをしました。勉強して受かるというプロセスや方向性は一緒だと思うのですが、結果でみると簿記1級のほうが評価されるんだなあと、私でも受かるということを証明したいと思います。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

皆さんが合格体験記のなかでおっしゃっていますが、勉強すれば必ず受かる試験だということは私も実感しています。合格するか否かは自分の気持ち次第ですから、諦めずに必ず合格するという強い気持ちを持ち、自分自身を信じて頑張ってください。



ドタバタ受験記

飯田 さん

1980年生まれ、29歳、男性

2010年4月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：81点（2009年8月／2回目）、BEC：79点（2008年10月／1回目）

REG：79点（2009年11月／2回目）、AUD：86点（2010年4月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

もともと、日本の会計士試験の勉強をしていました。就職先の上司に、米国公認会計士の取得を勧められたのがきっかけです。日本の公認会計士に合格出来なかったため、そのリベンジも兼ねて挑戦しようと思いました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識は、日本の公認会計士試験の短答式試験合格程度です。英語力はTOEIC 610点程度でした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日本の会計士試験の勉強をしているときに、会計系の資格に強い予備校というイメージがあったので、TACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師も教材も全体的に良かったと思います。特に、Regulationはテキストもよくまとまっており、授業も講師の方の熱意が伝わってきました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

規則正しく授業を受け続けるという観点から、通学を選びました。合格までの期間は、約3年半でした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

働きながらの学習でしたので、授業を規則正しく受け、通勤電車の中で授業の内容を復習するということが精いっぱいでした。一通り授業が終わってから、試験に向けた勉強を始めるとい、今から考えたらかなり非効率的な学習法だったかもしれません。

試験対策は、「Beckerの問題を解き、間違えたところを教科書で確認する」をひたすら繰り返しました。その際、間違えた問題の英文の解説を教科書に書き込んだりしました。本番の試験では、教科書に書き込んだ内容が、解答のヒントになりました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

再受験の申し込みをオンラインで行った際に、注意書きを読まずに、同じ科目を2回分予約しようとしてしまいました。その結果、申し込みがrejectされ、その後の手続きにも手間取り、有効期限内に最後の科目を受験出来るかヒヤヒヤしました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

会計知識と英語は、社会人にとって強力な武器になると思います。U.S.CPAの勉強は両方を学べる試験です。何か新しく勉強を始めたい方には、最適なのではないかと思います。

ROUTE99（本科生）はペースメーカーとして最適でした



匿名希望 さん

2010年8月 USCPA試験合格（ワシントン州）

FAR：92点（2009年10月／1回目）、BEC：89点（2009年11月／1回目）

REG：94点（2010年2月／1回目）、AUD：90点（2010年8月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

財務分析は財務諸表を信頼した上で行われますが、近年それが裏切られるケースも出てきており、「どのように財務諸表は作られ、監査されるのか」を知りたいという問題意識がベースにありました。また、会計制度は海外の流れを受けて大きく変化しているので知識をアップデートしたかったということもあります。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

日本GAAPの知識はありましたが、US GAAPの知識はありませんでした。英語力は一般的なビジネスレベルでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

証券アナリスト講座でお世話になり「真剣に教えてくれるところ」であるということを体験していたということが直接のきっかけです。また、通信クラスでしたので動画の環境がスムーズでよかったこともあります。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

ROUTE99（本科生）は、ペースメーカーとしては、最適でした。科目の順番も、ベストだと思います。また、メールや電話、相談コーナーで、すぐに質問に答えていただけたというのは、非常にありがたいシステムでした。自分の場合は、そういうサービスをかなり利用したと思います。

講義でいうと、草野先生のFAR1は非常に楽しく、かつ勉強になりました。また、REGの内田先生の講義と勉強法は、相当バリューがあると思います。

教材に関してはテキストの各章の最後についている英語の専門用語の和訳集は大事にとっておく予定です。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信です。ネット環境さえあれば何時でも何処でも見られるという利点があります。一部科目によっては2008年冬入学クラスの生授業を先に聴講し、Webの授業が配信される前に試験を受けたりもしました。それにしても、アメリカの大学の正式な会計単位を、自宅でWeb講義を聴き、都内のプロモレトリック会場で試験を受けるだけで取得できるというのは、一昔前では考えられない画期的なことだと思います。私にはここまでインプットの整ったTACの努力に本当に頭が下がります。ちなみに入学から最後の試験までを学習期間とすると、1年2ヶ月でした。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

（全般的なこと）

まず講義を通信で聴講するとき、こまめにテキストに、「この箇所の説明は通信講義の何時間何分目」というように、目盛りがわりに時間を書き込んでいて、どこでもいつでも、すぐ「あの講義のあの箇所」を再び聴講できるようにしました。見直すときに、その説明の箇所を探さなくて済むので非常に効率良かったです。

まず日本語のテキストをしっかりマスターするところから始めました。日本語のテキストをマスターした後は、Beckerを読み込みました。また、FARの草野先生のアドバイスを従っていろいろな英文財務諸表を読みました。アメリカの大手の会社は総じてそうですが特にIBMの10Kなどは、勉強していることがまさに財務諸表の注釈に出ていたり、学んでいることがどのように使われているのを感じることが出来て、モチベーションを維持するのに役立ちました。また、特に会計分野で感じたのは、TACのテキストのほうがBeckerよりも優れているということです。FARでのキャッシュ・フローのボックス図を使った説明や、MAのボックス図、Varianceの計算方法など、正直Beckerだけであつたら、かなり難しかったと思っています。やはり会計はTACだなあ、と思いました。

Becker問題集とPass Masterの使い方

まず一通り、プリントアウトされたBeckerの実践トレーニング集を早め早めに解きました。とりえず一度全部解くことにより、次に再びテキストを読むと、理解度がアップします。論点が「浮かび上がってくる」のです。紙ベースの問題を解きながら、記録をとるためにPass Masterに間違えた問題をチェックしました。Pass Master 2回転目ですすめたいのは、Beckerの音読です。私はTACのテキストとBecker以外は何も使いませんが、Beckerは全部読みました。声を出して読むと、WC対策にもなると思っています。

Pass Masterにはいろいろな機能がありますが、全問一通り解き終わったあとに一番好んで使ったのはProgress Testです。それも、例えばF1を11問13分というように一つ一つのチャプターについて個別に使いました。これは、①食べやすい大きさに切ることで、時間がないときでも少しずつ出来る、②問題というのは、すぐに正誤を確認しないとフィードバック・バリューが少ないからです。答えをすぐ知ることにより、正しかったらポジティブ・フィードバック、間違っていたらネガティブ・フィードバックを受けることにより、記憶力が上昇します。100問解いてからでは、一度にたくさんの問題をレビューすることになるのであまり効果的ではありません。

U.S.CPA試験の過去問題を分類すると2x2=4つのパターンに分けられます。まず、良い問題（基本的なことをコンパクトに聞いていて、かつ論点が面白い）と悪い問題（重箱の隅をほじくる割には、あまり重要でない問題はおそらくもう2度と出ないタイプ）とに分けられ、さらに、それは自分が正解した

問題か、間違えた問題かの4つのパターンです。よく、Pass Masterは90%が良い、というのは、悪問にあまりこだわらないように、という意味で言われているのだと思います。また、本試験では、Beckerよりは簡単に感じるケースがあります。それは、追い込みの復習時期は自然と何度も間違えた難しい問題を中心にやっているからだと思います。Beckerの解説でさえ、「おそらくこんな問題2度と出ないだろうからリリースしたのでしょう」と書かれると、何だか過去問の意義というのは何だ？と感じてしまいます。このため、本当は良い問題で、かつ正答した問題も周期的にやらないといけないと思いついて、Pass Masterをとくときは、Good Question, Bad Questionというコメントを入れていきました。直前のレビュー時は特にGood Questionにかけるべきで、めったに出ないタイプの問題に使うのは非効率です。その点、TACの作った問題集は殆どがGoodなので、非常に効率的です。

マンネリ対策＝単位試験などをペースメーカーに

Beckerを一通り解いた後のマンネリ対策として、スプレッドシートに問題番号の表をつくり、色を変えてつぶしていくという方法も取りました。単純ですが、達成感・モチベーション維持に非常に良かったと思います。また、何回転もしくすむよう、試験の時期をなるべく早めて受験しました。とにかくプレッシャーをかけ、試験日にピークがくるように意識しました。BeckerのFinal Examは本試験の1週間前と2週間前にやったり、単位試験を本試験の2週間～1ヶ月ぐらい前に受けたりして、ミニイベントを作る様にしました。また他の合格者の合格体験記や、CPAnet.comなども気分転換に良く見ました。

WC対策

平均点数が90点を越えたのはWC対策が功を奏したからではないかと思えます。Beckerのテキストの虫眼鏡マーク（BeckerによるとSimulationのリサーチタブ対策用）はトピック集としてWCの対策に使えます。この用語をスプレッドシートに書き写し、それぞれのテーマに関して、キーワードを含む一つの英語のセンテンスを作り、その文だけはすぐ出てくるようにしました。たった一つのセンテンスでも、それがスムーズに出れば、自然と残りのセンテンスも出てくるものです。この際、なるべく自然に出てくるような、汎用性の高い表現をつかうよう意識しました。

（科目別）

FAR

まず、簿記の経験もなかったため、とにかく「会計も言語であるならば、まずは語彙力だ」ということで、仕分けのパターンを暗記しました。これは、効果的だったと思います。あと、A5サイズの5ミリ方眼用紙に、各コンセプトを図式化し、それをテキストの関連ページに貼り付けました。ビジュアルイズするのと頭の中から引っ張り出すのも楽で、時間をセーブできます。また、草野先生のアドバイスを従って、Tバーはたくさん書きました。

BEC

BECは、唯一Simulationがない試験。計算問題を完璧にして、BS、Eco、ITを繰り返しました。全体的には、FAR終了から1ヶ月で本試験を受けました。最初は、1ヶ月で足りるか不安でしたので、私は2009年の春入学クラスでしたが、先ほど触れましたようにFARの講義中から一つ前の冬クラスのIT、BS、ECOに出席し、はやめにイメージを掴んでおきました。また、FARを受ける前から管理会計の単位を取得し、BECの直前に上級管理会計の単位を受けられるようにしました。さすがに単位試験も3回もうけると、MAはだいぶ理解が進み始めたのでよかったですね。結果的に1ヶ月も必要なかったような気がしますが、2～3週間でも十分でした。

REG

REGは全く新しい科目だったので、2ヶ月という勉強期間を決めました。ちなみに、Federal Taxation ATG 477のプレテストの補講教材にあるIntroduction to “Concepts” in TaxationはWC用にも非常に使えます。是非一読をお勧めします。2ヶ月という期間は最初短いなと思いましたが内田先生の直前対策のおかげで十分すぎるくらい準備が出来て、逆にピークを維持するのが難しくいらいでした。あの直対を理解+記憶すれば、まず90点はいけます（そこまで必要ないです）。

AUD

AUDは地道に言葉の表現の違いを意識し、暗記しました。おすすめはBeckerのSimulationについている「まとめ」を暗記しました。結果的にはこれは非常に効率的でした。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

途中のメイン州→ワシントン州への変更を含めて、手続きに関しては全く問題ありませんでした。しかし、念のため、いろんな申し込みをするときは、かならず何をして欲しいのかを書いた説明のカバーレターを添付しました。ハプニングも幾つかはありましたが、来年から日本でも受験できるとのことなのでここでは割愛させていただきます。

CBTはご存知のようにレベルが途中でステップアップします。したがって、最初はあまりにも簡単に、拍子抜けしますが、そこで本当に飛ばせるだけ、飛ばさないと、後で時間が足りなくなりますので、それだけご注意ください。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

諸先輩方も指摘されていますが、U.S.CPA試験は非常にフェアな試験で、ちゃんと準備すれば必ず合格できる試験であるということは間違いありません。しかし決してやさしいわけではありませんので、とにかく一番重要なのはモチベーションの維持だと思います。私の勧めは「伊藤塾」塾長、伊藤真さんの本「夢をかなえる勉強法」を一読することです。素晴らしい本です。



シニア会社員の U.S.CPA 受験

滝川 雅直 さん

東京大学出身 59歳

2010年7月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：76点（2010年7月／3回目）、BEC：77点（2010年7月／1回目）

REG：76点（2010年2月／3回目）、AUD：77点（2010年2月／4回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

公認内部監査人（CIA）資格を取得し、CIAにはU.S.CPA資格者も多かったことからU.S.CPA資格にチャレンジしようと思いました。又、社内のU.S.CPA取得者からU.S.CPA受験の体験談を聞き受験する意思を強くしました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記2級

英語知識：TOEIC®TEST 860点

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

証券アナリスト講座を受講した時の講師の授業が分かりやすく、良かったので、USCPAもTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

DVDでしたが日本人にはなじみの薄いレギュレーション、NPO会計などの講義は分かり易かったと思います。

TACのテキストを読めば合格できる内容でした。Beckerの問題集、PC問題は実戦的でした。

長期受験となったのでTACの5年間継続受講制度は有難い制度でした。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信（DVD）、2006年秋から約4年間。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

週末2日間と週日通勤前の1時間。テキストを読むこと、BECKER問題集を解くこと。受験への家族の理解と協力が必要。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

NASBAへ提出した書類に不備があり、TACのUSCPA担当の方にお世話になりました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

日本で受験できるようになれば、少し気楽に受験できると思います。BECにライティングが加われば日本人にとっては少し負担になるかもしれませんが、あきらめずに丁寧に書いてみることで、スペルチェックを忘れないことだと思います。リソース（検索）問題はキーワードに注意して後は運任せでしょうか。私は合格した時には59歳になっていましたが、なるべく早く受験準備されるのが良いと思います。年齢とともに体力が落ちてきます。

チュウヅマ合格体験記



A.D さん

大学卒業後、都市銀行に勤務したのち夫の転勤に伴い渡米。現在アメリカ在住。海外駐在員の妻（その多くは専業主婦）のことを略してチュウヅマと呼ぶことがあります。

2010年6月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）

FAR：96点（2010年4月／1回目）、BEC：92点（2010年5月／1回目）

REG：98点（2010年2月／1回目）、AUD：92点（2010年1月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

夫の海外転勤に伴い、勤めていた銀行の仕事を辞めて夫と一緒にアメリカに渡りました。アメリカでも仕事をしたりしましたが専業主婦でいる時間も長く、帰国後に再就職をしようとした場合に、自分の経歴が採用する会社側にはどう映るのかという点であまり自信が持てませんでした。いくら意欲があってもそれだけでは人に伝えるのは難しく、何か「形」に残るものがあったほうがよいだろうと思い、学生から興味があり、一度は受験を検討したこともある会計士の資格にチャレンジしてみようと思いました。日本の公認会計士を受験するという選択肢もあったのですが、今回はアメリカ在住のアドバンテージを生かしUSCPAを受験しよう決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

受験を決めた時点ですでにアメリカに2年ほど住んでいましたので、ある程度の「慣れ」はあったと思います。TOEICは日本在住時700点前半、渡米後で800点後半です。経済学や会計の初歩的な知識は大学の専攻で習得済みでした。学生時代に日商簿記を2級まで取得しています。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士を受験していた友達から聞き名前をよく知っていたこと、大手であること、そして海外生活者に対するサポートが充実していたことです。TAC North Americaのスタッフの方々には受講検討時からトラブル発生時まで大変お世話になり、本当に感謝しています。日本にいるのと変わらないサポートを受けることができました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

「海外に住んでいるのだし、結局英語で受験するのだから最初から英語のテキストでやってみようか？」などと考えたこともありましたが、日本語解説のTACのテキストを選んで本当に正解でした。何かを理解しようとするときには、やはり母国語のほうが断然有利です。個別の科目ではREGの講師陣が非常に印象的で素晴らしかったです。REGはほかの科目との関連性が薄いのに分量は多く暗記中心、という負担の重い科目なのですが、お二人のおかげで逆に楽しんで学習することができました。教材について、TACはBeckerと提携しているところが大変強みだと思います。Becker Course CDは画面が本物の試験画面にそっくりで、試験慣れという意味ではBeckerで反復練習をすれば全く心配はいりません。BeckerのほかにもCPA Reviewのテキストは色々出版されているようですが、私はTACとBeckerのみを使用しました。Beckerだけでかなりの分量がありますので、それを2~3回転していれば試験には十分すぎるほどのです。手を広げればきりがなく不安はつきないものですが、Beckerに載っていないものは解答できなくてもよい、と割り切ってもいいと思います。TACテキストもBeckerも気が付かない間にアップデートされていることがあるので、特に試験直前には必ず最新情報をチェックしておいたほうがいいです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

通信DVD講義です。学習を開始してから最初の受験まで1年2ヶ月ほどですが、実際に勉強量で測ると最後の4ヶ月間に集中していると言えます。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

科目ごとに集中して勉強し合格を積み上げて行く方と、全体を一度網羅してから最後にまとめて受験する方がいると思いますが、私は時間的にも余裕があり、科目間のつながりを意識したいと思ったので最後にまとめて受験する方法をとりました。

科目はFAR→BEC→REG→AUDの順に進めました。FARがすべての基礎となっているので、FARを先に学習しておくがスムーズだと思います。

まずDVDを視聴

↓

DVDを視聴した部分のTACテキストに掲載されている問題やTAC問題集の問題を解く

↓

Becker MCにチャレンジ

↓

Becker Simulationにチャレンジ

↓

Beckerをやってみて自分が正確に理解できていないところ、混乱しているところ、どうしても丸暗記しないといけない部分、などをメモにまとめる。但しTaxとNPAIは内田先生のまとめノートが充実しているので自分で作る必要はありませんでした。

↓

受験1週間前にFinal Exam、BeckerのMCとSimulationをすべて解き直し

↓

受験直前は間違えたところのみ、と、Beckerの機能を使って100問クイズなど。

まず全体をと思い、上のプロセスで言えばBecker MCのあとに次の科目に移っていたので、元々助走期間が長かった上に、中だるみで思うように勉強が進まないこともあり、結局合格までの期間を長引かせてしまったように思います。受験にこぎ着けた頃には最初に勉強した部分を完全に忘れてしまっていて、受験直前の1ヶ月間にまた同じテキストを読み直すという結果になりました。時間だけはたくさんあったのでそれでも特に問題はなく、むしろそのおかげでいい点数がとれたと考えられなくもないですが、働きながら受験をされる方々は一科目ずつ短期集中して合格を目指す方法のほうがよいと思います。それから私はSimulationの問題を最後にしていましたが、Simulationこそ先に解くべかったと途中で気がつきました。Simulationの問題は知識の整理もついでです。MCとちがいで「わかったつもり」では解けないので、自分の意外な弱点に気付かせてくれます。初めはテキストを参照しながらでもいいと思いますので、早めに手をつけることをおすすめします。

科目毎では、

FAR：最も「わかったつもり」になっていたことが多かった科目です。仕訳や計算などは講義を聞くだけでなく実際に自分の手を動かすことが大切です。

計算問題が多いのですが、試験直前は自分の電卓は使わずPC内蔵の電卓に慣れておく必要があります。思いのほか使い勝手が悪く時間を取られたり、使い方を誤ったせいで解答が出せなかったりします。

BEC：相互に関連の薄い、広く浅い論点が多いのが特徴です。現状ではSimulationがないので手を抜きがちですが、意外と細かい点が問われることがあります。Becker MCで問題形式になれておくといいたと思います。

REG：分量が多かつなじみのない論点が多いのですが、TAC講義が非常に充実しています。講義DVDをしっかりと視聴すると良いと思います。BL杉浦先生の講義は受験を抜きにしても聞いているだけでも面白かったですし、Tax内田先生の独特の語り口は受験中にふと頭をよぎり、正解を導き出す助けになったことがあります。Taxに関しては早めにSimulationに着手すると知識整理に大きな貢献をしてくれます。Taxはアップデートが最も多い科目です。

AUD：理解が求められますので、暗記だけではなく常にどうしてその答えになるのか、またほかの答えではない理由を考えながら演習をしていました。2つまでは絞り込めたけど、そのどっちかわからない、というケースが一番多かったのがAUDです。監査レポートの使われる文句がダイレクトに問われる問題（Written Communicationでも出ます）がかなりあるので、私はレポートの雛形を自分でWordにタイプして丸暗記しました。一見時間のムダのようにですが、フレーズで覚えてしまうと忘れにくいので後が楽です。

Written Communicationについて、要はパターンだというアンソニー先生のWC対策講義を視聴して少し自信を持つことができました。最初から諦め気味の方も多いと思いますが、WCも自分の知識の整理に多いに役立ちます。私は出ないだろうと思いつつもBL問題集に付いているWC問題を解いてみたりしました。またWC対策で身に付くビジネス英語独特の言い回しは、試験勉強も離れても仕事上でもきつと役に立つことがあると思います。実際、私は日々の生活の中で「あ、これは受験勉強で覚えた言い方だな」と思うことが多々あります。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

特に手続上の問題はありませんでした。アメリカ国内に住んでいるためか、学歴審査の結果やNTSも一般に言われているよりかなり早く届いたと思います。

受験会場でのIDチェックや持ち物検査はTACホームページに掲載されているものとほぼ同じ手順、厳しさを。一度、受験中にプロメトリックセンター全体のPCがダウンし受験が中断になったことがありました。その間はテストレットの時計も停止していたので、特に問題はありませんでした。

幸いなおことに自宅から徒歩10分ほどの距離に受験会場があり、リラックスした状態で受験をすることができました。

結果発表日が決められていないために、受験から発表までは落ち着かない日々が続きました。私の場合は、受験中に初めて目にするような問題も多く、またよく言われているようなMCの「ステップアップ感」もまったく感じることなくかなり自信喪失気味で受験を終えたのですが、フタをあけてみれば思った以上の点数で合格していました。受験後は終わった科目のことは忘れて、次の科目の勉強に集中するか、しばしの開放感を満喫するほうが得策だと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

受験を終えてみて、私はUS-CPAの試験はよく言われているほど簡単な試験だとは思いません。アメリカの公的な資格なので難しくて当然なのです。ただ一部の「特別な人」だけが合格できるような試験ではないと思います。真面目にコツコツと勉強をすれば、誰にでもチャンスは与えられている試験です。自分の経験から、短期合格を目指す方は期限をしっかりと切ることが大切だと思いました。せっかくコストをかけて始めた勉強ですから、そのまま受験せずにうやむやになってしまった、という事態は避けたいです。こういって自発的な勉強は、監視してくれる人がいないのでモチベーションを維持するのが困難なこともあると思います。どうしてもやむを得ない場合は、期間を決めて完全に勉強から離れる、というのひよつ方法だと思います。ただ勉強から離れれば離れるほどせっかく覚えた知識は忘れていってしまうので、決めた「お休み」期間が終わったら必ず戻るようにしてください。合格したときの達成感や長い勉強期間の苦労に報いると思います。

合格後の達成感は格別！TACとベッカーを信じてガンバルのみ。



Y.S さん

1971年10月生まれ
早稲田大学卒業 1994年3月卒業
勤務先：国内生命保険会社

2010年4月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：83点（2010年4月／2回目）、BEC：83点（2009年2月／1回目）
REG：77点（2010年2月／2回目）、AUD：78点（2010年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

数年前に1年間、米国に勤務していたことがあるのですが、日系企業での日本語中心の1年間という環境から英文でのビジネスにあまり自信を持てずに帰国しました。そのような折、米国公認会計士という資格に興味を持ち、会計を中心とした米国ビジネス全般の基礎知識を学べるだろうと期待してチャレンジしました。同時に英語のレベルアップも期待していました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語はTOEICで800点弱。会計に関する資格では、簿記2級、証券アナリスト1次試験の合格という状況でした。仕事ではあまり英語を使わないのですが、CPA試験勉強中に受けたTOEICは890点になっていました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

相応の難易度がある資格試験の勉強は始めからTACと決めていましたので他校との比較は行いませんでした。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

5年間継続再受講制度は、最新教材での格安な受講が可能と、私のように当初受講（2006年夏コース）から時間が経過した人間にとって非常に魅力的でした。私は、AUD、コンソリデーションに関するFAR新基準対策講義で利用しました。今後も知識のアップデートのために、可能な限り利用したいと思っています。

それと受講生サイトは最新の情報や学習において参考になる情報が非常に多く有意義でした。特に改定レジュメやぶっちゃけ話は良かったです。あとはやはりベッカーですね。本試験に比し難易度は若干高いような気がしますが、これをしっかりやっておくとマルチのDifficult Levelを含めた本試験に向けた学力がしっかり身につく合格へのハードルが下がるのではないかと思います。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

2006年夏コースに通信DVDで申し込みましたが、夏コースの授業にはほとんど参加しました。コース終了後、仕事が忙しくなってきたことを言い訳に、単位取得試験の進捗が遅れ、しばらく勉強がストップしていたのですが、メイン州の受験要件緩和を機に2008年に学歴審査、出願と一気に手続きを加速させました。

本試験受験前には通学受講の記憶は薄れており、再度DVD視聴から開始することになってしまいましたが、実質的には2009年1月半ばから2010年4月半ばまで1年3ヶ月にわたり学習したことになります。DVDにしておいて本当に良かったと心から思いました。DVDは教室と違い、その場での質問は出来ないのですが、DVDを1.5倍速で視聴すると短時間で講義受講を終わらせられます。実際には問題をやらないうちで身につかないので視聴は軽くでもいいと思います。

なお、基本的には2006年春夏コースの教材を使いました。それに加え、受講生サイトにアップされている改定レジュメと5年間再受講制度によるAUD、FAR新基準対策講義で最新論点をカバーしました。ベッカーは2009年版で学習しました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

*2009年2月：BEC

2008年10月にFAR、REG、BECを申し込んだNTSが到着したのですが、必要な手続きや学習を全くせず、2009年1月19日になってあわててテストセンターの予約をする始末でした。結局2月27日のハワイでBECしか予約できず、FAR、REGはどぶに捨てた羽目になりました。何はともあれ受験に向け早速DVD視聴とテキスト付属の問題から開始しました。ベッカーに着手したのが、2月17日からかなり無謀な状況でした。結局ベッカーは、Financial management and Planning, Budgeting, and Cost Measurementのサブリを除く244問しかこなせませんでした。当初はベッカーを1問3分で終わらせる計画を立てていましたが、解説の読み込みまで入れるととても時間がかかる事を痛感しました。私の場合、平日で40問、休日でも100問が限界で、それ以上やっても集中力が続か

ず頭に入りませんでした。それと特に差異分析などはベッカーの問題は難しく感じながらも思いました。あんなに複雑な問題は本試験では出ませんでした。

しかし本試験はマルチのみということもあり、83点というまずまずの結果でクリアすることが出来ました。本試験は、制限時間一杯で何とか全問回答できたという状況で、時間配分が全く出来ていなかったと思います。性格的にじっくり慎重に回答しないと気がすまない気質からか、1間にじっくり時間をかけすぎてしまう傾向があり、BEC以降に受ける試験でもしばらくペース配分がつかめませんでした。マルチ1問にこだわるよりも全体を意識し、取れるところを確実に得点するほうがベターな戦略だと思います。

それとNTSを受領したら即テストセンターを予約する、これは鉄則です。30営業日前でしたらキャンセルフィーもかかりません。

*2009年7月：REG

BECの次に受験したのが、2009年7月27日のREGでした。これは家族との夏休みハワイ旅行にあわせ申し込みました。当初FARとREGを申し込んでいたのですが、6月に証券アナリスト2次試験があったこと、BECの合格で油断し、3月・4月全く勉強しなかったことが災い、DVD視聴開始が6月中旬からとなってしまいました。かなり出遅れてしまい、FARは結局リスキュしてしまいました。TAXについても、2006年の厳選問題440問だけでシミュレーションは未着手、BLはテキスト付属問題のみという状況で受験しました。知識が定着していない状況での受験、時間配分のミス（後半のWCは全くやっている時間がありませんでした）が重なり64点と惨敗しました。

ベッカーのFinal Examなんてやる余裕がとてなかつたのですが、時間配分はとても重要だと改めて痛感しました。また、家族との貴重な夏休みの一部を費やした上でのFAILという意味でもショックでした。リゾート地のホテルのロビーや喫茶店で1人勉強するのは本当につらいです。個人的には家族旅行と同時の受験はおススメしません。

TAXの勉強について、当然のことながらベッカーのマルチには日本語解説も無く、出題順もテキストとは異なるため、PCで学習するベッカーには全く歯が立たなかつたです。その点、厳選問題集はテキスト順の配列に加え、日本語解説がついているため大幅に時間を節約できました。数値改定や若干の制度改訂はあるものの、本試験では細かい論点は出題されることも無く2006年の厳選問題でも十分使えることがわかりました。

*2009年11月：FAR

7月に受ける予定だったFARを11月3日にグアムで受験しました。Intermediate (FAR2)、Advanced (FAR3)、NPAのDVDを9月から開始しました。FARはとにかくボリュームが多く、およそ1ヶ月前からベッカーを開始しましたが、私にとっては難易度の高い計算問題が多く、結局マルチはいわゆる財務会計についてはサブリを除く367問しか終わりませんでした。NPAは174問ほどをこなしました。マルチを解く時間がなくなってきたので、REGでの経験も生かし、シミュレーションはそれぞれ2回ずつこなして本試験に臨みました。シミュレーションをやるマルチではわからなかつた各論点の全体感をつかむことができ非常に有益でした。

本試験では、テストレット1を予定通りの45分で終了した後、テストレット2で大きく時間をロスしました。急激に難易度が上がった感じがしました。長文の問題も続き、55分かかって終わらずに最後は保留していた問題を適当に回答しました。するとテストレット3がやけに簡単に。この瞬間、かなりのショックで集中力を欠いてしまいました。さらにテストレット1の数値を変えただけの問題が2問出題されました。これで「落ちた」と思い込んでしまい、平静を保つのが非常に難しかったです。

シミュレーションは連続した問題ではなく、単品の問題ばかりでしたが、1つ1つの説明文が長く、圧倒的に時間が足りません。解答欄もスクロールしないとどり着かないので上に行ったり下に行ったり、非常に時間がかかりました。しかも見たことのない論点の問題やどのように回答したらわからない仕訳の問題など正直ハズレの問題に当たった感じでした。

そして結果は70点。2回連続のFAILは相当のショックでした。しかし、スコアレポートを見るとマルチはStrongerの成績でした。テストレット3は明らかにMedium Levelに戻ってしまいましたが、それでもあきらめずにシミュレーションを頑張れば合格も可能なのだと思います。

ここまでの合格はBECのみで、シミュレーション付の本格試験(?)の合格に見放され、もう受からないのではないかと疑心暗鬼に陥ってしまいました。ちょうどFARの申込みからなぜかオンラインでのグアムサーチャージの支払いができなくなってしまい、苦労して電話で支払いをしたのですが、ひょっとして自分のIDとテスト結果がうまく紐ついていないのではないかとくだらない想像をしてしまったりしました。日本にいるとハードルが高いのですが、SCORE APPEALをしようかと思ったときもありました。でもこんなときこそ落ちついてひたすらベッカーを信じて解きまくるしかありません！ベッカーはやや難易度が高かったり、マニアックな論点の出題があるような気がしますが、これをやることによって知らず知らずのうちにCPAの基礎学力が上がるように

思います。やはりこのときこなししたマルチの367問では足りなかったということなのでしょう。やはり幅広くやらないとだめだなと思いました。

また、FARをやっておくとREGやAUDに役立つ知識が多くあり、ここである程度FARを追い込んでいたのは結果的には奏功しました。

このときからWCは、この合格体験記で紹介されていたTOEFLとかGMAT対策で使われているというテンプレートに沿って回答するようにしました。私の場合、WC対策講義は1つを除き視聴する時間がありませんでした。

*2010年2月：AUD、REG（2回目）

初めてのAUDを2月16日、2回目のREGを2月17日にグアムで受験しました。AUDは改定内容があまりに多く、再受講制度を利用しました。付属の問題集を1回やった後はレポート種類やAttestation and other engagementを中心にワードでまとめノートを作りました。まとめノートは時間がかかりますが、細部の記憶が強固になります。その後ベッカーに着手。サブリを除く724問とシミュレーションをまずは1回やりました。気になる問題はまとめノートに追記したり、他にまとめノートとは別のファイルにベッカーの章毎にベッカーの解説をコピー&ペーストした後で見直せるようにしました。AUDのベッカーは計算問題も無く、他の科目に比べスムーズに進みましたが、テキストの丸暗記では解答できず、数多くの問題をこなして感覚を養うのが合格への近道ではないかと思います。1回目の正答率は約8割、誤答が147問、マークした問題は381問でした。本当はマークした問題をすべてやり直したかったのですが、例によって時間切れとなり、グアム行き前の最後の土日に誤答の147問をやり直し、再度間違えた50問をプリントアウトして機内でやりました。

グアムへは仕事を終えた夜に成田を発、現地の朝2時頃到着で、その日の11時から試験を受けました。

本試験は、テストレット1を30分、2を30分、3を45分と想定以上のハイペースで進み、シミュレーションにはたっぷり1時間ずつを使いました。正直なところDifficult Levelになっていたかどうかは全くわかりませんでしたが、マークつけた問題は進むにつれて増えていたのでおそらく難しくなっていたでしょう。シミュレーションも最初のWCにたっぷり45分を使ってしまいました。手ごたえは抜群で90点超えかと思いましたが、結局は78点でした。しかし、それまでの課題となっていた時間配分の課題を大きく改善し、余裕を持って解答ができました。ベッカーでの学習により、知らないうちに英語を速読する力もついてきたのだと思います。

グアム2日目は朝からREGです。しかし、AUDの興奮から前夜REGの勉強が全く手につかず、直前の勉強は殆どせずに試験本番を迎えました。このときは学習そのものがAUD中心となり、REGの勉強は前年7月以来、しかも1月中旬から開始といつものようにはまってしまうました。結局TAXは厳選問題440問を1.5回転に加えシミュレーションを1回ずつ、BLはSOX法、倫理・会計士責任、Contracts、Sales等のサブリ以外の125問のみベッカーをやり、残りはテキスト付属の問題を軽くやった程度になってしまいました。試験直前に簡単にレビューできるのも魅力です。TAXの直前対策まとめとBLのまとめノートは本当に役に立ちました。

本試験では、AUDと同じくマルチを短時間で切り上げシミュレーションに45分ずつ割り当てることができました。しかもかなり素直なシミュレーション問題（1つは2007年問題とほぼ同じ）にも救われ、なんとか77点で合格できました。

REGは、改定レジュメにアップされていたストックオプションや資産交換に関する問題もしっかり学習しました。それとやたらにBasis計算が出てきますが、私は仕訳を書いて基本ルールに基づいて勘定科目・金額を調整するやり方を取りました。プラスマイナスではどうにも覚えられず、仕訳を調整するやり方でもこなせませんでした。

REGの午後、グアムを発ったのですが、初めてすがすがしい気持ちで受験地を後にしました。

また、1年ぶりの合格、しかもダブル合格だったこともあり、合格の味に飢え、学習方法に迷いも生じていた自分にとって本当に大きな喜びとなりました。実は全科目合格した時よりもこの時の科目合格のほうが嬉しかったくらいです。

*2010年4月：FAR（2回目）

2回目のFARは4月19日にグアムで受験しました。

2月に受けたAUD、REGの結果が3月末まで判明せず、場合によっては落ちた科目とFARを同時受験することも考えていたので、かなり悶々とした気分です。学習を進めました。しかし今回は3月頭から学習を開始しました。具体的にはまとめノートの作成とベッカーです。FARは非常に範囲が広いので、直前期に見直せるまとめノートをワードで作りました。FARは特にシミュレーションで仕訳を聞かれる事もあるので仕訳を中心にまとめました（全部で50ページほど。時間の関係でコンソリデーション、税効果会計、キャッシュフロー表、パートナーシップは作れませんでした。）ベッカーをやりながら気になる点を追記し、ほぼ完全なものになったと思います。

ベッカーはNPAを除く財務会計の問題を621問やり（サブリはやらず）、誤答93問、マークした問題286問でした。NPAは別途174問をやりました。シミュレーションは1回やりました。直前期は例によって時間が無く、結局誤答した問題だけをやり直し本番に臨みました。

本試験はマルチを2時間15分で終え、AUD、REG同様スムーズに飛ばしました。ちなみにNPAは90問中18問とびつたり2割が出ました（そんなくだらないことを記憶するほどうまくペースをコントロールできていました）。シミュレーションは単品問題ばかりでしたが、割と素直な出題で救われました。感触としては合格だと思いました。5月末にスコアが判明しましたが、やはり合格しており長い受験生活にピリオドを打つことができました。

実は、合格判明時の嬉しさは程々でしたが、時間が経つにつれ実感がわき、格別の達成感を味わうことができました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

グアムサーチャージがなぜかオンラインで支払えず、ナッシュビルのNASBAに直接電話して支払いを行ったことが何回もありました。日本との時差、不慣れな英語、受電者により異なる対応（電話で支払わせてくれる人とそうでない人がありました）等々かなり骨が折れました。この試験は、単なる学習だけでなく、会場予約等の事務周りまで含めて日本人にはハードルの高い試験ですが、あきらめずに粘ることが重要だと思います。

エアはすべてマイルで、ホテルを別途予約するパターンでした。グアムでは初回はデイズイン、2・3回目はブルメリアに泊まりました。ブルメリアは周りには何にもないですが、会場が近いので直前ぎりぎりまで勉強できるのは大きなメリットだと思います。また、現地発16時のエアにあわせ、14時まで滞在しても延長料金を取られません。オーナーのREDさんはとてもいい人です。食事はレトルトのご飯、カレー、お茶漬け、カップラーメン等を日本から持ち込みました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験は相応の期間勉強することになると思います。その間、学習方法に悩んだり、事務手続きが上手くいかなかったり、不合格だったり色々なことが起こると思います。私の場合、たまたま会社に同時期に試験を受ける友人がいたので、雑多な相談ができ、非常に助かりました。試験仲間を作って情報交換するのも合格への近道だと思います。

私はあまり実行できなかったのですが、本試験は各WINDOWの最初の月に受けるのがいいと思います。後半の月は非常に混雑し予約が取りにくいこと、後半の月に受験し方が一不合格だった場合、次のWINDOWの予約がとりにくく、次の次のWINDOWに受験せざるを得ないケースが多くなってしまふこと（忘れないうちに即、次の試験に向けた学習をしたほうが有利）などがその理由です。

これも私にはありませんでしたが、計画的な学習も非常に重要です。この試験は範囲が広い分、短時間で何とかなる試験ではありません。私は結局ベッカーのサブリ問題を1問もできなかったり、FINAL16直前対策講義(今のシミュレーション対策講義)やWC対策講義を見られなかったり、各科目の受験後しばらくサボってしまったり、毎回ドタバタしてしまいましたが、少しでもいいから計画的に勉強することが一番の近道ではないかと思います。また、そうすることにより私のようにギリギリ合格するのではなく、余裕の高得点合格ができるのではないかと思います。

極めて個人差がありそうですが、本試験ではゲンを担ぐというか、なにか自分にとって縁起のいいものを身につけて試験に臨むのも気持ちを落ち着かせる上で有効ではないかと思います。私はジーンズが好きで、とある職人さんに作ってもらい、せっせと色を落としたお気に入りのジーンズがあるのですが、なぜかそれを履くとどんな試験でも良くできる（と思い込んでいる）縁起モノでした。不合格になった2回の試験は別のジーンズを履いており、合格はすべてこのジーンズを履いて勝ち取ったものです。会場には余計なものは持ち込めませんが、なにかラッキーアイテムを身につけていると心が落ち着くかもしれません。

<その他> 私は、妻と小学生、幼稚園児がいる4人家族なのですが、家族との大事な時間を犠牲にしての受験勉強は非常に苦しかったです。平日は会社帰りや帰宅後深夜までファーストフード店等で勉強し、家族はもう寝ているのでそれほど苦にはなりません。特に本試験2ヶ月前からは土日でも勉強モードでしたので、家事ができなかったり、家族との貴重な時間が過ごせなかったり、本当に胸が締め付けられる思いでした。本試験は2回も落としましたが、このような犠牲を考えると本当にやるせない気持ちになります。しかし、合格後の自分を想像し、思いっきり家族と遊ぶんだという気持ちで前向きに取り組むのが大事だと思います。不合格が続いても、その分、合格後の達成感は格別なものになると思います。家族には感謝の気持ちで一杯です。

それと今回の勉強によって、入社以来続けてきた毎日1本のビールをやめることができました。飲み会がない日も1日の終わりにビールを飲まないで落ち着かない人間でしたのですが、今では別にビールを飲まなくても平気な体質(?)になりました。人間、強い意思を持てば長く続く習慣も変えられるんだと妙な自信につながり、意外な自分発見にもなりました。



わかりやすい講義と Becker が TAC の魅力

富安 信志 さん

勤務先：電機メーカーにて経理担当

2010年4月 USCPA試験合格（メイン州）

FAR：85点（2009年2月／1回目）、BEC：80点（2009年2月／1回目）

REG：77点（2010年2月／2回目）、AUD：78点（2010年4月／3回目）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

やはり会計と英語の両方を身につけたいと思ったからです。私は電機メーカーに入社して以降、ずっと経理業務を担当しておりますが、入社して2年くらい経った頃、ある程度業務が分かってきた中で、もう少し会計を勉強したいと思いました。それ以前に簿記2級程度の知識はありましたが、連結や監査などについてもっと詳しいところを知りたいと思っていました。それとは別の軸として、国際的な仕事をしたいという思いもありまして、その両方を達成できる資格としてU.S.CPAに挑戦してみることにしました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識については、学生時代に簿記2級を取得していました。特にスクールには通わずにTACのテキストを使って学習しました。英語についてはもともと好きでしたが、仕事では英語の契約書を確認する程度でした。TOEICスコアは学習開始時点で780、BATICについてはSUBJECT 1をパスしていたと思います。BATICを取得した理由は、勤務先から最低限のところはおさえておくよう求められていたためです。BATICも簿記2級と同様、独学で取得しました。

Q TACをお選びいただいた理由は？

本音を言うと、一番の理由は通学しやすかったからです。私の場合、自宅から校舎まで近かったですし、通勤で京王線を使っていたため新宿校の自習室が非常に便利だと感じました。また、以前から（U.S.CPA以外の勉強で）TACのテキストを利用していましたし、「会計といえばTAC」という気持ちがあり、他のスクールではなくTACに決めました。

Q 実際に受講してみてTACの講座で良かったところは？

非常に優秀な講師がたくさんいらして、とても分かりやすい教科が多かったです。またBecker教材と一緒についてくるので、非常に勉強しやすかったです。

特に印象に残っている講師は、REGの内田先生と杉浦先生です。テキストも非常に分かりやすかったです。REGは苦戦したためテキストをあとから何度も見直したのですが、その際にもすぐに分かる非常に分かりやすいテキストだったと感じました。REGの中でも、特にTAXは普段馴染みのない分野だったのですが、本当に分かりやすくポイントを絞って教えてくださいました。REGの講師の2人（内田先生、杉浦先生）に関しては、ほかのスクールに通っている知人にも自慢していました。

Q 通学・通信どちらで学習されましたか？

基本的に、すべて通学で学習しました。FAR、BEC、REGの3教科については、渋谷校で毎週土曜日に教室講義を受けました。4科目すべてを一気に受講・受験するのは厳しいと思ったため、AUDについてはFAR、BECに合格した後に通学DVDで受講しました。

Q 学習法についてのポイントは？（合格までの学習期間は？）

TACの教材しか使っていません。学習法は、問題集を解きながらというのが原則かと思うのですが、私の場合は特にインプットを重視しました。MC（マルチプルチョイス：4択問題）問題集のみで勉強すると、4択という問題形態の限界で、インプットしたい内容を漏れなくエクセルにまとめていく形で学習しました。

また、FAR、BECについては英語で分かりにくいところは日本語で別途、ファイナンスの本を読んだり、簿記1級のテキスト等を使った

りして参考にしました。例えば退職給付や連結など、ややこしい論点は日本のものと被っている部分も多いので、日本語で合わせて勉強しました。

エクセルのまとめの方法については、一問一答の問題形式でまとめました。左側に問題（例えば「詐欺防止法が適用される取引4種類は？」）と書いて、右側に回答を書いておきます。こうすることでMCを解くより簡単に反復演習ができますし、印刷すれば電車の中でもインプットができます。そうやって覚えていない部分やMCで間違えた問題があれば随時追加していくことで、『自分が覚えていない箇所』だけを漏れなく集中してインプットすることができました。

Q Beckerについてはいかがでしたか？

Beckerについては、MCは紙ベースで解きました。シミュレーションは実際にパソコン上でやってみました。テキストについてはAUDで細かなところを調べた程度で、あまり使っていません。BeckerのMC問題は、繰り返し何度も解く方もいらっしゃると思いますが、私は正答したものについては1回から2回解いたのみです。けれども間違えたMCについてはまとめノートを使いながら何度も解きました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

グアムのテストセンターの席が空いていなかったことが一番困りました。すべてグアムで受験したのですが、早めに席を予約しておくべきだということが良く分かりました。

出願手続きについては、私はメイン州出願だったのですが学歴審査も含めスムーズでした。TACでフォローアップセミナーやってもらっていたので、TACのサンプル通りに手続をおこない、受験するところまでは本当にあっさり進みました。

実際の受験の際に困ったことは、細かいことですが、キーボードが日本のものと異なるため、例えばWritten Communicationの際に「アポストロフィー（'）はどこだろう？」などと苦戦したので、事前にチェックしておくことをオススメします。（ちなみに誤った操作をすると、PCから大きなアラーム音がするのでビックリします）

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPA試験は「やればできる」試験だという気がしています。結果的に、覚えなければいけないことはたくさんありますが、例えば、ものすごく頭が良くなければ理解できないというレベルのものがないので、地道に頑張ればやれば出来るかなという気がしています。あとはなるべく効率の良い方法を考えてやるのが、上手くいくコツのような気がします。

Q 現在の業務でU.S.CPAの勉強はどのように役立っていますか？

現在、勤務先の電機メーカーから関係会社に出向して経理を担当しています。小さいところでやっていますので、何でも一人でやる必要があるのですが、その際にU.S.CPAで得た会計知識はもちろんのこと、AUDITの知識も非常に役に立っています。例えば、連結の仕訳を考えたりする時や、リース、デリバティブなど、一通りの知識をU.S.CPAを学習することで網羅的に得られたと思いますし、現在の業務に非常に役に立っていると思います。

英語については、現在、実務では使ってはいませんが、U.S.CPAの学習を通じて英語の文章を読むことが苦ではなくなりました。特に、会計関係の用語については嫌というほど勉強しましたし、経済関係についても一通り勉強しましたので、そういった分野の英文を読むことが苦ではなくなったことで、今後の業務の幅が広がると思っています。



細切れの時間を大切に！こつこつと努力を積み重ねて合格！

岸 賢一郎 さん

1976年11月生まれ（33歳）
慶應義塾大学 商学部 2001年3月卒業
勤務先：BDO税理士法人 マネージャーとして
申告書作成・税務相談を担当
公認会計士

2010年4月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：85点（2009年7月／1回目）、BEC：80点（2009年7月／1回目）
REG：86点（2010年4月／2回目）、AUD：82点（2009年10月／1回目）

Q U.S.CPAにチャレンジしようと思ったきっかけを教えてください。

日本の公認会計士試験に合格した後、大手監査法人に6年ほど勤めまして、当時は国内監査部で過ごしました。その後、転職する際、もともと税務に興味がありまして国内税務だけでなく、国際税務に関する仕事をしたいと思っていましたので、現在のBDOに転職しましたが、仕事をやるうえで、英語の会計専門用語について知識を積み重ねなければいけないということを実感し、せっかく勉強するのなら資格という目標に向かって勉強しようと思い、U.S.CPAを目指すこととしました。将来はこの資格をきっかけとして海外で働きたいと考えています。

Q 学習開始時点での英語力を教えてください。

TOEICだと800点くらいでした。監査法人に勤めていた頃は、国内の監査をしていたのですが、ゆくゆくは国際的な仕事をしたいと思っていましたので、英会話学校にも通っていましたがTOEICの勉強も続けていました。

Q TACをお選び頂いた理由を教えてください。

日本の公認会計士受験の時も2次3次試験とTACで合格しましたので、U.S.CPAを受ける時も迷わずTACを選びました。

Q 実際に受講してみた感想をお聞かせ下さい。

Web通信で受講していましたが、自分の都合の良い時間に勉強できる点は何よりでした。仕事で帰りが遅かったので、夜中や週末に1回分の授業を何回かに分けて細切れで見たりもしました。教材では、Beckerの問題集が特に良かったです。Beckerの過去問なくして合格はありませんでした。

Q 印象に残っている講師はいらっしゃいますか？

Business Lawの杉浦先生とTaxの内田先生は大変印象に残っています。

Q5 勉強方法について教えてください。

日本の公認会計士の資格を持っているということで、当然有利だということは学習していて感じましたが、勿論それだけでは合格できないということもよく分かっていましたから、どの科目も省略することなく、1から勉強しました。U.S.CPAは日本の公認会計士に比べて受かりやすい資格だと聞いていましたが、やはり基本的なことをしっかりと学ぶためにも講義は省略しない方がよいと思いましたし、新たな気持ちでスタートしようと思って、FARも最初から勉強しました。実務でもUSの所得税などを見る機会がありますから、1つ1つがたいへん勉強になり、興味深く勉強することができました。日本の公認会計士試験に比べたら合格までにかかる時間は短くて済むと思いますが、やはりきちんと授業を受けて理解し、問題演習を繰り返して試験に臨まなければ、合格はできません。Business LawやTAXはUS独特の論点がありますので、日本の公認会計士試験の勉強ではカバーできません。私の場合は、AUDは他の科目に比べて楽に合格できました。忙しくて勉強する時間がなかなかとれませんでしたので、公認会計士の受験で監査論を学習していたことと、なによ

り6年間の実務経験が効いていたのかもしれませんが。英語で勉強するという点を除けば基本的に同じですから比較的すんなりと合格しました。

Q 学習時間はどれくらいになりましたか？

2008年7月から学習をスタートしまして、2009年7月に1回目の受験をしまして、2010年4月に全科目合格しました。

Q 受験手続きについて何か困ったことなどはありましたか？

最初の学歴審査はずいぶんと時間がかかりました。続く出願についてはNTSが届くまでの通常2ヶ月間くらいかかると聞いていたのですが、私の場合思いのほか早くNTSが届いたために、仕方なく予定を前倒して受験しました。手続き自体は特にトラブルもなくスムーズにいきました。スコアの方は、届くのがとても遅くて、この時はTACのスタッフの方にも相談にのっていただいたりしてお世話になりました。結局、新しい問題に当たった人は発表が最後になるらしいということでした。確かにREGの1回目の時は見たことのない問題が出題されていました。しかもかなり遅れて届いた結果は不合格でしたので、次の試験に向けてまた新たに勉強するスタートが遅くなってしまいました。

Q 現在学習中の方へのメッセージをお願いします。

US.CPAは働きながら勉強している人がほとんどですから、勉強のための時間は限られていると思います。ただし、日本の公認会計士試験と違ってMultiple Choiceの問題が占める割合が高いですし、Multiple Choiceの問題1題を解くためにかかる時間は1分か2分です。細切れの時間を上手に使って勉強することをお勧めします。私は朝少し早く事務所に着いたら、10分でも20分でもとにかく問題を解く、昼休みにもちょっとした時間を見つけて問題を解く、こうして少しでも空いている時間を積み重ねていきました。そういう意味で社会人にとっては勉強のし易い試験だと思います。Beckerをやっておけば本試験で同じような問題に当たりますから、気分的にも楽に受験することができると思います。

Q 現在のお仕事の面で役に立っている点がありますか？

具体的に何が役立っているというよりか、今の仕事では海外のメールを読むことが多々ありますが、そのスピードは確実に速くなっています。問題演習をする上でかなりの英語の量を読むことになりまますので嫌でも英語力は身に付くと思います。

Q 合格されたことについて周りの方の反応はいかがですか？

かなり忙しい時期に受験をしていましたので、周りは私が合格したことに驚いていました。現在U.S.CPAを目指して勉強している後輩たちにとっては、「忙しくても受かる」という見本になれたのではないかと思います。

TAC スタッフのメールに受験生へのハートを感じて感激！



匿名希望 さん

2010年4月 USCPA試験合格（イリノイ州）

FAR：78点（2010年2月）、BEC：79点（2008年10月）

REG：75点（2010年4月）、AUD：75点（2009年11月）

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

U.S.CPAを目指すこととなったきっかけは2つあります。まず、大手日系企業に入社した時点で、会社に依存した働き方をしたくないと思い、それには何か自分の能力を客観的に評価できるものが必要ですし、専門性を身につけるべきだと思いました。もう1つの動機は、欧州に本社がある外資系の会社に転職した時に、親会社の上司や仲間は日本の大学、企業のレベルをまったく知らないわけですから、日本の資格を取得するよりU.S.CPAの資格を取得する方が自分自身をアピールできると思いました。そして資格を取得した際には、アメリカで仕事をするを目標にしようと思って勉強を始めました。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

英語はもともと得意というわけではありません。TOEICも英検も受けたことはありませんし、特別に英語だけを勉強したことはありませんから、U.S.CPAの学習を始めたときは、大学受験で身につけた英語力、そのままのレベルでした。ですから最初のうちはやはり苦労しました。会計の知識は大学で経営学を専攻していましたから馴染みはあり、簿記の2級も取得していましたが、監査論やアメリカの商法、税法は初めての触れる知識でした。

Q TACをお選びいただいた理由は？

実は最初ANJOで学習を始めましたが、2006年に倒産してしまい、フォローも受けられなくて非常に困っていました。暫くはANJOのテキストとGleimのテキストで勉強してBECは合格することができましたが、学習を進めていくうちにSimulationの重要性をひしひしと感じまして、U.S.CPA講座を開講しているスクールの資料をいくつか取り寄せて検討して、TACを選びました。

Q4 TACを受講して良かった点について教えて下さい。

最初はAUDのSimulation講座をとり次にBecker対策パックを申し込みました。これは大変良くできていて、本番の試験と全く同じ画面、同じ操作となっていたので、家で勉強する時にも本番の緊張感を得ることができ、逆に本番の試験では家で受けているようになりリラックス感がもてました。Multiple Choiceは各科目1,500題程ついていますしFinal Exam(模擬試験)までついていますからお買い得だと思いました。

もう1点、TACを選んで良かったこととして、私の場合にはANJOが無くなってしまったので本当に困っていたのですが、TACのスタッフの方が色々な質問やアドバイスについて快く受けてくださり、本当に助かりました。今回インタビューについて協力しようと思ったのもそんな経緯があったからで、このような形で恩返ししてお役に立ちたいと思ったからです。どの方もとても丁寧に、しかも翌日にはきちんと回答をいただき、対応がよくて感激しました。さすがに受験校だけあって受験生の精神状態をよく考えてくださっていて、メールにもハートを感じました。受講生サイト等のサービスもとても良いと思います。

Q 学習方法は？

あくまでも、75点で合格できる試験ですからそのことを念頭に置いて戦略を立てました。

Multiple Choiceができなければ合格はありませんから、まずはMultiple choiceで90%とろうと自分の中で決めました。70%のうち90%ですから63点分になります。合格点が75点ですからあと12点足りないわけですが、これはSimulationの30%からとることになるわけです。その30%のうちWritten Communicationの10%はとりあえずちょっと置いておいて、Simulationの総合問題20%のうち60%をとれば20×60で12点になりますから、これで75点になり合格です。60%をとることはそれほど簡単なことではありませんが、私は英語が得意なほうではなかったため、Written Communicationで皮算用できなかったものから、こんな戦略を立てたわけです。これだとWritten Communicationで2~3点取れば合格できることになります。

Multiple Choiceの学習方法は私の場合平均5回解きました。1回目は問題と正解の選択肢だけを読んで、問われていることは何かというのを強く意識します。2回目は問題と正解の選択肢と正解の選択肢の解説を読み、3回目は不正解の選択肢と解説も含めた問題と解答の全てを読みます。これで一通り網羅することになり、後の4回目、5回目は3回目のやり方をよりスピーディーに繰り返す、これが私のやり方です。複数回問題を回す際に間違えた問題だけを解く人も多いかと思いますが、私のやり方では1回転目に正解した問題についても3回は必然的に解くことになります。私の場合には5回目までは全問解いていました。正解した問題の中にはたまたま正解したものや、本質を理解していないものがあると途中から気が付いた為です。5回目になってやっと問題の本質に気が付くこともありましたが、最終的には7回、8回と解き続けた問題もありました。以上は回転数のお話です。

もう一つ私の勉強法で特徴的なところは3回転目にMultiple Choiceを解く時に、問題、解答、解説をノートに書いて記録に残しました。すべてを書くわけではなく、問題の題意、何が問われているのかということ、正解の解説です。必要だと思ったときには不正解の解説部分についても書いておきます。B5のノート1ページに2~3問書くことができますので、1科目について3冊ぐらいになりました。案外何が問われているの分からずに問題をといていることがありますが、書くことによって論点もはっきりします。FARやREGの計算問題もこのノート上で計算します。書くことによって記録が残り、その時になぜできなかったのか、なぜミスをしたのか、どんな計算をして間違えたのかということが不正解の計算過程に克明に残っているわけです。ですから、書いたら捨ててしまうような不要な紙やレポート用紙ではなく、1冊のノートに書くことが大切なのです。しかし、ノートを作ること自体にエネルギーを費やしてはいけません。記録に残して捨てないことが目的ですから字の美しさとか見た目などについて気にしてはいけません。科目によってはそれほど書けなかった科目もありました。

スピードを意識しての練習は試験1ヶ月前からリリース問題を解きます。必ずストップウォッチを横に置いて1分30秒以内で解く練習をしてその感覚を掴みました。1日に解くMultiple Choiceの問題数については、1日100問などと決めていらっしゃる方もありますが、私は始めの2~3ヶ月は1日20問くらいが精一杯でした。試験直前でも平日は30問~40問、休日は50~80問、どちらかというところじっくり解いていくタイプでしたね。本当に直前になってやっと100問くらい解けるようになりました。人によって問題を解くスピードや理解の仕方はいろいろだと思いますが、私はこんな方法で勉強を進めました。

受験方法についても、どのタイミングで受けるかということをよく考えなければなりません。1つはひと通り全科目70%くらいまで仕上がってから受験する方法、もう1つは科目を絞り1科目集中して勉強してまず1科目を合格する方法。これはどちらでも良いと思うのですが、その人の置かれている状況、経済的状況は勿論のこと、どのくらい会社を休むことができるか等、によって変わってくると思います。70%くらい仕上げたから受験するメリットは、この状態で1科目合格することができれば、残りの3科目についても3~4ヶ月毎に受験して、合格できることとなります。デメリットは受験までに時間がかかることです。一度受験することによって見えてくること、例えば出題傾向、試験の時間配分、コンディション作り等いろいろあると思うのですが、見えないまま勉強を続けていかなければならないのは厳しいところです。もう1つの方法、ひと通り勉強が終わったら1科目に集中して合格する方法は、どの教材をどのレベルまで完成させれば合格できるのかということが早い段階で分かるところがメリットです。あとの3科目はそれを繰り返せばよいわけです。ただしこの方法では残りの科目は手つかずになってしまうわけですから、残りの18ヶ月で3科目を75点のレベルまで持っていかなければならないわけです。最初に受かった科目の期限切れにおびえながら勉強を続けなければなりません。私の場合にはコンバインでした。どの科目も2回ずつ受験し、どの科目も1回目は70点くらいでした。ただしBECが合格するまでは1科目集中型でした。とうとうこと MIXタイプでした。

Q 科目毎の学習方法を教えて下さい。

BECはSimulationがなく、すべてMultiple Choiceでしたから、原価計算等の計算問題が多くて、スピードがかなりきつかったです。2回目の受験の際には、懲りてスピード強化を図っていきましたが、逆に理論の出題量が多くて焦りました。皆さんITについてかなり心配なさっているようですが、私もITの専門家ではありませんから、シスアド初級のテキストをちょっと読んで、日本語で知識を頭に入れておきました。辞書代わりに使ったという感じです。

AUDについては完璧に仕上げたつもりでしたが1回目の受験は74点で不合格となってしまいました。2回目2ヶ月頑張った結果は75点で、2ヶ月勉強して1点しか取れていないということにがっかりしました。日本人の方でも90点を超すような点数をとる方もたくさんいらっしゃいますから、私の勉強のやり方に弱点があったのかもしれないし、もっと精度を上げて受験しなければいけない科目なのかもしれないと思いますが、相対的に日本人にとってAUDは苦手な科目なのかもしれないと思いました。

FARは自分の中では一番得意としていた科目ですが、公会計が20%ありますからこの部分をきっちりやらなければいけないと思っていました。

REGはTAXとBusiness Lawがあるのでボリュームがありますが、TAXに力の配分に重点を置いて勉強しました。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

すごく大きな問題はありませんでしたが、細かいトラブルは色々ありました。やはりNTSが届かなくて、2週間待って来なかったら連絡するように言われていますが、たいていは2~3日で届くの、ある時届かなくて、でも2週間待ってから連絡したら、「送ったはずだが再送する。」と言われて、その後すぐに届きました。スコアレポートも届かず、パフォーマンスを見たいと思って連絡すると、また、「送ったはずだが再送する。」と言われて、この時もその後すぐ届きまして、本当に再送だろうか？とちょっと疑問を持ちました。結構手続き関係については細かいところで色々なことがありました。

試験は全てGuamで受けました。受験手続から、会社の休みを取るところから、色々な面で大変です。私の場合には会社が外資系だったせいか、それほど休みが取りにくいということはありませんでしたが、一度受験に行くだけで何万もかかります。しかし、私はせ

っかくGuamに行くからには楽しもうと思っていました。行きは疲れがピークのところで行くわけですから、なかなかそういうわけにはいかず、やはり飛行機の中ではテキストを見直さなければなりませんし、お酒も飲むこともできませんし、かなり緊張しています。試験が終わった後はもうこっちのものですから、美味しい韓国料理を食べに行ったり、ビーチでのんびりしたり、思う存分楽しんで帰って来ました。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

U.S.CPAは、やれば受かる試験、と言われますが、この「やれば」がくせ者です。どこまでやればというのはその人それぞれですし、もともと英語が得意な人もいれば、会計の基礎知識がどれくらいあるか、どのくらい努力のできる人であるか等、人によってバックグラウンドが違います。やればという言葉はたいへん抽象的な意味合いを含んでいます。ある一定の学力のある人、努力のできる人、努力を続けられる人であれば、学習の面だけでなく、NTSなどのいろいろな煩雑な手続きについても乗り越えていくことができると思いますし、そういうことに耐えられる覚悟があれば、合格したときの達成感は素晴らしいと思います。この試験はアメリカという国に行かなければ受験できませんし、受験手続きではアメリカの人と実際に交渉しなければなりません。そういった苦労が全て報われるということは本当に素晴らしい経験です。私は日本だけに留まっている気はありませんから、これでやっとアメリカというステージに、ちょっとした足がかりができたような気がしました。感じ方は人それぞれだと思いますが、私の場合には最初に通い始めた学校が倒産してしまったというようなトラブルにもみまわれましたから、全科目合格した時には、やっとエベレストに登り詰めたという気持ちになりました。Guamに7回も行けばかなりの出費になりますし、会社の有給も使い切ってしまうし、子どもと接する時間を確保しながら勉強もしなければなりません。そしてこれはどんな資格試験の勉強についても言えることだと思いますが、何より家族の協力が無ければ合格はあり得ません。色々な苦労を乗り越える覚悟があればチャレンジする価値は十分あります。途中で受験を諦めてしまう人もたくさんいると思いますが、乗り越えることができるかどうかという事は、最後は動機だと思っています。動機は例えばU.S.CPAという響きが格好いいとか、このメーカーに行きたい、会社を辞めたい、いろいろあると思いますが、なんでもよいと思います。壁にぶつかった時にそれを思い出して乗り越えることができるような動機を持つことが大切だと思います。

最後に、私の頭の中には合格した後のことについても色々なイメージがありまして、将来海外で仕事をする際、U.S.CPAという資格があることで重みが違うと思いますし、自分がこれから海外で活躍していくきっかけになるのではないかと考えています。皆さんも合格後の自分の姿をイメージして色々な苦難を乗り越えて合格を勝ち取って欲しいと願っています。



できる問題を確実に得点する！！

黒田 康平 さん

1978年1月生まれ（32歳）
慶應義塾大学 商学部 2001年3月卒業
勤務先：大手メガバンク
財務・経理担当

2010年5月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：88点（2009年11月／1回目）、BEC：79点（2009年11月／1回目）
REG：94点（2010年4月／1回目）、AUD：86点（2010年5月／1回目）
2011年1月 ワシントン州に合格実績をトランスファーし、ライセンスを取得

Q USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

大学が商学部で、もともと会計に興味がありました。周囲が日本の公認会計士試験を勉強していたこともあり、その影響から自分もなんらかの会計関連の資格が欲しいと考えていました。学生時代は海外の会計基準にまでは興味がありませんでしたが、会社にいざ入ってみると日本の会計基準はすべて海外の会計基準を追いかけるような形で、多少は独自性を主張している部分もありますが、基本的には海外の基準を受け入れる体制をとっていることに気づき、それならば、先に海外の会計基準を勉強しておくということが重要だと思い、U.S.GAAPを勉強してみるのも良いかなと思いました。そうは言っても仕事が忙しくてなかなか手を着けられなかったのですが、2年前に海外留学する機会があり、この機会を利用して勉強しようと決意しました。最初はIFRSを勉強しようかと迷ったのですが、適切な資格がなかったことから、まずは英語で会計基準を勉強することに慣れるという観点からU.S.CPAを目指しました。

は大変有り難かったです。質問も何回かしましたが、必ずきちんと答えてくださり、海外で受講する不安はまったく感じませんでした。

Q 学習方法は？

私はまずFARとBECを受けました。日本にいと渡航費用のことや休みを取って受験しに行くことを考えると4科目1度に受験するか、2科目ずつになる方が多いのではないかと思います。米国に住んでいますと容易に1科目ずつ受けることができますから、それほど追い込まれずに余裕を持って受けることができました。まずFARを3ヶ月程かけて勉強しました。TACのテキストは基本的なところから丁寧に作られていますが、私は財務会計については知識がそこそこありましたから、いきなりBeckerのテキストを英語で読み始めてみました。まず、自分の中にある日本の会計の感覚を英語に読み替えるような作業をしながら、連結など改正のあるところだけTACのテキストを見ましたが、あとの部分はBeckerのテキストだけ読み込みました。公会計については馴染みがなかったため、内田先生の講義DVDを見て、先生のまとめノートを参考に勉強しました。受験1ヶ月半くらい前からはひたすら問題を解き続けるアウトプットトレーニングに注力しました。Beckerの問題は全問を4回くらい回し、その後間違えたところだけ2回プラスして回して、ということで計6回程回してから受験に臨みました。実際FARの試験では知らないことも確かに出ました。テキストに載っていなかった範囲からの出題は取り組みづらいところもありますが、冷静になって考えれば採点されない問題もあるそうなので、そう考えれば難しい問題が出たときにはこれは恐らく採点されない問題だろうと判断して気にしないようにしました。FARのテストではBeckerの問題を違う視点で聞いてくるものが結構あります。これができるようになるためには単純に問題を解いているだけではだめで、問題を解きながら2が答えの時1と3と4が違う理由を、問題を見ただけで言えるくらいになっていることが必要です。そうすればどんな方向から出題されても正解できるようになります。

Q 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計については大学4年生の時に簿記1級を取得していました。英語については海外留学するために勉強している期間がありましたから、U.S.CPAの勉強を始める時にはTOEFLで90点を超すぐらいの英語力はありました。英語はもともとそれほど得意な方ではありませんでしたが、留学試験に合格するため半年真剣に勉強しました。当初54点くらいからスタートしましたが、90点を超すぐらいまで力をつけました。今でもそれほど英語が得意というわけではありませんし、U.S.CPAの学習を始めた時点においても普通の人より若干できるかなという位のレベルでした。

Q TACをお選びいただいた理由は？

実は証券アナリストの資格取得の際にもTACでお世話になりました。会社でもTAC講座と提携していましたが、実際に証券アナリストの講座を受講してみて、テキストも良くできていて非常に分かり易かったと記憶していました。加えて、会計関連の資格取得支援の専門学校の中でTACには国際色というものが感じられました。

Q 実際にご受講いただいて良かった点は？

スコアに顕著にでているのですが、FARについては財務の部署で仕事をしていますし簿記の1級も持っているということもあり、正直言って最初からBeckerに手をつけることができるレベルでした。逆にREGとAUDについては、それほど知識があったわけではありませんでした。その中でも監査法人とやりとりがあったのでAUDについてはある程度の知識がありましたが、REGについては米国のBusiness Lawや税法を知りませんでしたから、ここの勉強が私にとっては非常に重要でした。TACではこの科目について特に先生（杉浦先生と内田先生）が素晴らしく、テキストしかり、授業しかり、たいへん良く構成されていました。REGが94点も取れたのは本当に上記お二人のおかげで、TACの講座を受講して本当に良かったと思っています。AUDに関してはテキストの構成が学習を進めやすく工夫されていて良かったと思います。AUDという科目は監査について、とにかく繰り返し同じ事を勉強して身につけていかなければ仕方のない科目だと思いますから、監査のプロセスを授業の中で繰り返しやるような形になっているのは授業の構成としてとても良いと思います。

BECについては、知識がまったくないBusiness Structure（米国組織法）とITについては、まずテキストを読むところから始めました。Business Structureは杉浦先生のテキストに付いている問題をきちんと解いていけば100%正解できるようになると思います。私はその分野では1問も落としていない自信があります。ITのできなかった部分についてはBusiness Structureでカバーしましたから、BECが合格できたのは杉浦先生のお陰ですね。BECの受験の際には大学の試験勉強と時期が重なり、時間が無かったので3~4週間しか勉強できませんでした。はじめの2週間はBusiness StructureとITのテキストを見て、後の2週間で問題を4回転じて合格できました。ただBECで私が一番後悔していることは、Beckerに付いているFinal Examを受けずに本試験に臨んでしまい、点数が70点代だったことです。BeckerのFinal Examは本番の試験より難しく作られていて、これで60%以上取ることができれば本試験も受かるといわれています。確かにそうだと思いますし、先生方も皆そうおっしゃっています。どんなに時間がなくてもFinal Examまでやっておくと精神的なゆとりを持って受けられるような気がします。

続くREGはまったく知識がなかったのでTACのテキストから勉強を始めました。内田先生、杉浦先生と両方が結構なDVDの量で大変でしたが、あの授業の良いところは、Simulationの問題が授業に組み込まれているので急にSimulationの準備をして慌てる心配が無いということです。内田先生の授業は常にSimulationを意識しながら講義が進んでいました。内田先生の声は頭に残る声ですね。雰囲気も印象的ですから記憶に残りますし、重要な論点は授業の中で繰り返し言ってくれるので、それを利用して頭の中に残りました。後はTACの問題集をBeckerに取り掛かる前に3回くらい回して、間違えた問題は思い出せるくらいまで解きこんでからBeckerに移ると、90%以上できると先生がおっしゃっていたのですが、確かにそうでした。Business Lawについてはとても分厚いテキストですが、それ

Q 受講形態は？

米国にいましたので、通信で受講しました。TAC North Americaのスタッフの方に受験票がこなくて困った時には相談ののってもらったりしてサポートして頂きました。TACは日本の会社であるにもかかわらず、米国にいても色々なサポートを受けることができるの

だけやっていたら合格できる内容が盛り込まれていると思います。重要論点だけでもやっておけば、ほぼ合格できる内容だと思います。Written Communication(以下WC)の問題も付いており、なかなか忙しくてWCの問題を書いている時間をとることは難しいと思いますが、何が論点なのかを書いてみることによって、記述の問題には択一式の問題よりも多くの論点が含まれているということに気づきますので、全体の整理にはたいへん有効です。WCでBusiness Lawが出たという話はあまり聞いたことはありませんからやる意味が無いような気がするのですが、要は書くことで覚えられるということだと思います。仕事でも何でも一緒ですが、頭の中で分かっているような気がするだけになってしまうことがあります。書くことによって自分の頭の中で知識がきちんと定着していくと思いますから、WC対策はぜひやるべきだと思います。REGの試験を振り返ってみますと私の場合はMultiple Choice(以下MC)で見たことのない問題が出たり、Simulationで手をつけられなかった問題もあったのですが結果は94点でした。これから分かるとおり、採点されない問題が結構有るはずですからとにかくMCを勉強し、諦めるべきところは諦めても良いのかなと思います。WCは一般的にはFormatさえ頭の中に入れていけば知識の穴埋めをしていだけで、結構良い解答を作ることができます。日本人だから捨てるというのは違うと思います。私はそれほど英語が得意というわけではありませんが、WCは絶対に裏切らないところだと思うのです。WCは奇をてらうような出題ができないテストですから記述力が問われるわけです。配点が10点もあるということはしっかり書きさえすれば他のSimulation問題が上手くいかなくてもWritingで結構カバーできると思います。Simulation30%のうち10%がWCなのは最初から捨てるのは勿体ないというのが私の気持ちです。テキストに付いている問題集は結構回していますからBeckerは2回くらいしか回してなくても94点とれたということは、TACはやはりREGについてとても良い授業を提供している証拠ですね。杉浦先生と内田先生はやはり偉大です。AUDは自分で勉強しなければいけない部分が多い科目だと思います。授業についていっただけから受かるというような性質の科目ではありません。私は監査というものをテキストベースで最初から最後まで勉強してから、監査の成果物である監査報告書を丸暗記するところから始めました。実はこれは今の実務の中で十分生きていて、監査報告書は英語のものを日本語に訳したものが日本で使われていますから、これを勉強しておくとかかなり実務にも生きています。税務は覚えるというよりは身体に覚えさせる、計算式を覚えて使えるようにする側面が強いと思いますが、AUDは単純に覚える作業が多く、時間がかかる科目です。私の場合は2ヶ月くらい勉強しました。1ヶ月はひたすらインプットして残りの1ヶ月はひたすらMCを解きました。AUDは試験時間が長くてげんなりするテストですが、Simulationに関して言えば、試験問題の中に助けてくれる素材があります。後ろの条文を調べるところに検索機能がついていますから、もし監査報告書を埋める問題が出れば後ろの条文を見ればそのまま写すことができますので、これを利用すれば良い点が採れると思います。このようにAUDのSimulation問題はやり方を考えれば高得点が狙えるという感じがします。IT監査が最近注目されていると聞いていましたが、Multipleの中では90問のうち殆どでできていませんでした。U.S.CPA試験全体について言うことですが、細かいことをひたすら覚えるというよりは、全体的な大きな流れを理解して幅広い知識をいかに身につけているかということが大切なのだと思います。結論として言えることはMultipleの問題をひたすらやって、どこから聞かれても同じ問題については答えを出せる、切り口が変わっても答えられる状態にしておけば問題ないのではないかと思います。これが私の感想です。

Q 受験手続・受験時のエピソードなど

海外にいますと手続き関係についても楽です。Guamで受験した人からは受験会場での本人確認が大変だったという話をよく聞きますが、アメリカに住んでいる人は必ず免許証持っていますからパスポートを持って行く必要もありませんし、単純にDrivers LicenseとCreditカードがあれば受けることができますから、それほど大変ではありません。受験会場も選択肢が多いのが魅力です。アメリカに住んでいて受験しようと思う方は、大学生か、都市部で働いている方だと思いますが、New Yorkは地下鉄ですぐ行けるところに試験会場があります。私の試験会場は自宅から歩いて15分のところで、当時通っていた大学の中にあつて、ブースが4つか5つか無いようなところでしたが、こじんまりした田舎の町ですから気楽に受験できました。とにかく家から近いというのはやはり最大のメリットです。そういった意味でこの試験はアメリカ在住の方が受け

るには非常に良い試験だと思います。例えば海外赴任の方の奥さんで時間に余裕のある方って結構多いと思うのです。もしも受験資格があるのなら、ぜひともU.S.CPAの勉強をお勧めします。他にも海外在住中に受験するメリットとして、ぎりぎりまで教材を見て受けられるということもありますし、時差がないということが挙げられます。Guamも時差はありませんが、予約をとるのが大変だと聞きます。アメリカはそんなことはなくて、自分の受験したい日に受けられますし、1ヶ月前くらいでしたら変更しても埋まっているなんていうことはありません。書類のやりとりも日本から送るより安いのは勿論のこと連絡も取りやすく、私はニューハンプシャーで受けたのですが、最初に質問した時に回答してくれたコーディネイターの方のメールアドレスを控えておきました。向こうの人って代表のメールアドレスにきたものについては後回しですが、自分のところに直接メールについては即時に反応してくれますから、1回食らいついたら放さないという感覚でいくと受験ってうまくいくのかなと思いました。アメリカの資格ですから当然といえば当然ですが、色々な意味で日本からわざわざ受けに行くよりかはかなり楽でした。ですので、アメリカ在住で時間的に余裕のある方や、会計をちょっと勉強してみたい人にとってはピッタリの資格だと思います。ところで、この資格は米国のアジアなど他の国出身の方にもすごいニーズがあります。アメリカで仕事をしたいと思っている人は多いと思いますが、私たちアジア人が米国で仕事を見つけることは大変です。しかしU.S.CPAを持っていれば監査法人で働ける可能性がでてくるということで人気の資格になっています。

Q これから合格を目指す方へのアドバイス

苦手な科目はTACのテキストから、得意な科目はいきなりBeckerからでも良いと思います。実際米国で私の周りにいた受験生のほとんどはBeckerで勉強していましたから、最終的にはBeckerの教材がこなせるレベルになれば受かるということです。勿論、Beckerには一切日本語はついていませんから、苦手な科目はいきなり英語見ても分からないと思いますので、まずはTACのテキストを使って日本語で理解してから、Beckerに移行すればよいと思います。ただ私はFAR以外の科目はBeckerのテキストを読んでいません。なぜかというTACのテキストだけで十分にBeckerの問題が解けるようになったからです。Beckerの問題集は公表されている過去問から構成されているわけですから、これは解かなければ絶対に合格はありえません。U.S.CPAは勉強すれば必ず合格できる試験であって、勉強した人には必ず結果がついてくる試験ですから、目指したからには必ず最後まで諦めずにやり通して欲しいと思います。

Q 勉強したことが現在のお仕事に役立っている部分について教えてください。

かなり役に立っています。まず一つ言えることは、日本企業の一般企業、メーカー、金融業、どこの業種においても、今や書類にはたくさん英語が出てきます。U.S.CPAの勉強をすることは会計を中心にビジネスに関する幅広い知識を英語で理解する練習になります。また試験時間内に解き終わらなければ合格することはできませんから、問題を何回転もしているうちに、英語の速読の練習になっていて、いつの間にか英語の文章を読むのが速くなっていました。英語の速読力が身に付くということは、英語の書類の多い今の時代、かなり役に立っていると実感しています。別の観点からお話しますと財務や経理の部署で働いている人はU.S.CPA試験に合格した時点で、自分に自信が生まれると思います。自分に自信を持って仕事をすることができるようになると、周囲の人とのコミュニケーションも円滑になりますし、周囲からの期待が高まると更に勉強して力をつけていかなければいかんぞという気持ちになります。それ以外の観点では、監査関係の書類や英語の書類を見る時に非常に役に立っています。社内で海外の投資家に向けての英語の書類を見る機会も増えてきましたし、今後日本の財務諸表がIFRSベースで作成されるようになってくるということを前提に言えば財務諸表や監査報告書について英語ベースで理解できていけば今後海外の投資家や周りの人へのアピールとなり、仕事もやり易くなると思います。

諦めないこと！



塚原 慎二 さん

1980年1月生まれ
関西学院大学 商学部 2002年3月卒業

2010年2月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：87点（2009年10月／1回目）、BEC：79点（2009年10月／1回目）
REG：85点（2009年10月／1回目）、AUD：79点（2010年2月／1回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

元々銀行に勤務しておりましたが、転職を考えていました。その際に何か自分の武器になるような資格を身につけたいと思ったことが、最初のきっかけです。銀行にいたこともあり、会計の分野には興味があり、また将来的に海外で働きたいと思っていたので、USCPAならば英語の勉強にもなるし、一石二鳥で自分にとって役に立つと思いチャレンジを決めました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識：簿記3級は学生時に何となく取りましたが、それ以外は全くなしに等しいです。
仕事上でも、少しだけ財務諸表を触る程度であったので、ど素人からのスタートだったと思います。
英語知識：TOEICは学生時に一度受けて550点でした。その程度のレベルなのでこちらもまた、ど素人からのスタートだと言えます。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

TACの名前を学生時から知っていたというのが一番大きな理由です。それで話を聞きに行きました。実績も十分だったので、決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師の方々それぞれが実績をお持ちの方で、授業は非常に分かりやすかったです。
通信だった為実際に一度もお会いしていないことが唯一残念でした。
特に印象に残っている講師の方は清松先生です。本当に丁寧に、分かりやすく説明をしてくださっていたなと思いました。実際にお会いして質問等したかったなと思いました。
インパクトで行くと内田先生ですね。迫力のある授業で素晴らしいと思いました。その独特の言い回しを、そのまま暗記したりしました。こちらもまた実際に質問等してみたかったと思います。
教材はやはりBeckerが全てです。私はBeckerの問題集しかやっていませんが、あれだけで本当に充分だと思います。特にFinal Examは必要不可欠です。あれをやっておいたお陰で本番で慌てずに取り組むことができました。
あとは、私はだいぶブランクあったのですが、再開した際も質問メール等では十分な対応をして頂きました。この部分も非常に助かりました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVDで学習しました。
トータルでは3年半になると思います。
と言いますのも、私が始めたのは2006年秋冬です。しかしながら、仕事が忙しかったことを言い訳にして丸2年ほったらかし状態で、送られてきたテキスト類の封も解いていない状態でした。これではダメだと思い立ち、自分の退路を断つために、退職しUSCPA学習に専念することにしました。そこから1年で終了させるつもりでしたが、なかなか思うようには進まず、家に籠って一人で勉強していた為、モチベーションの維持にも非常に苦労しました。途中で何度か旅行に行ったりして気分転換を入れましたので、再開してから、1年半で何とか合格まで辿り着きました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

全般：全科目共通することですが、まずはとにかくDVDを一通り見る。それからBeckerの問題を一通り解いてみる。どんな感じで問題が出るのかを何となく掴んでから、再度DVDを通して見る。すると、1度目は何を言っているか分からなかった部分も、問題であんな風に出てたな〜とか少し分かるようになります。そして、あとはひたすら問題を解きまくりました。不明点があればそのポイントのDVDを見返すという感じで進めました。間違った問題、間違えそうな問題、注意すべきポイントなどは別にノートを作りました。そして、MCにだいぶ慣れてきたなと思えるようになったら、SIM問題に取り掛かりました。SIMはやはり数をこなしておかないといけないと思います。とにかくBeckerに収録されているものや、文章でテキストに載っているものを何度も解きました。WCは問われていることに対して、ピンポイントで回答が分からなくても、自分の知識の中で、そこに近いのではないかなと思われ

る部分を引っ張り出して、とにかく文章を作ることが大事だと思います。全く分からなくても、とにかく形を作ることが大事です。

試験の日が決まったら、2週間前くらいにFinal Examの日時を決めて最低2回はやりました。これは非常に重要だと思います。ほとんど本番と同じ画面でできるので、本番に慌てなくて済みます。必須です。

FAR：どなたもそうだと思いますが、一番入って行きやすい科目だと思います。まずは、ざっとそれぞれの項目を学習し、理解しました。そして、問題ではこういう風に問われるんだな〜という点をしっかり押さえて行けば、比較的進めやすいと思います。

BEC：BECは非常に専門的で、最初はかなりとっつきにくかったです。とにかく理解できるまで何度もDVDを見直し、テキストを熟読し、問題を解くことを繰り返しました。特にMAはやり方を覚えてしまえば、あとはパターンは大体決まっているのでやりやすかったです。ECO&FIN、BSも1度出題傾向などを覚えてしまえば、大体は解けるのかなと思います。最も苦労したのはITです。とにかく意味が分かりませんでした。DVDを何度見ても、テキストを読んでもあまり理解はできませんでした。しかし、ITが占める割合はかなり大きいので捨てるわけにもいかず、本当に苦労しました。試験の中で一番の難関だったのではないかと思います。とにかく、いくつかあるキーワードを覚え、その周辺の出題傾向を覚えることにしました。半分取ればいいかという感じで割り切ってやりました。

REG：TAXはどなたもそうだと思いますが、とにかく内田先生のノートの暗記です。それで何とかなると思います。あとはテキストも結構読み込みました。

BLは暗記です。いかに暗記ができるかが勝負だと思います。それぞれの項目を自分なりに覚えやすくまとめて、それを何度も読み返して覚えました。
AUD：私は第一印象でこの科目はやりにくいと思いき、これだけを最後に残しました。FARの知識がないと、分からないと思いますので、それは正解だったのかもしれない。一つ実際のAUDITに従って理解して行くことが重要だと思います。計算というよりは暗記になると思います。とにかく授業を受けて、テキストを読み込み、問題を解くうちに自然と入って来たかな〜と思います。出題傾向は大体同じような感じではないかと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

受験手続に関しては、TACの質問コーナーでしっかりと教えて頂き、またTACのページにも詳しく進め方が載っていますので、特に苦労はしませんでした。

NTS受領までは結構スムーズに行きました。
しかし、私は2度に分けて受験しましたが、Scoreが届くまでに時間がかかり、かなり焦りました。10月に3科目受験し、1科目（BEC）は2〜3週間程度で届き、2科目（FAR）は1ヶ月くらいで届きましたが、3科目（REG）がなかなか届かず、次の試験の予約がなかなか出来ずに焦りました。何度か催促のメールを送り、それが効いたのかどうかは分かりませんが、試験から2度2カ月後に届きました。それから、急いで残りの試験の申し込み手続をしました。結果が届くまで、次のNTSの申込みができないので非常に困りました。数回に分けて受験される方はそういう場合も考慮に行かなければいけないと思います。

それから、試験会場の下見は必ずするべきだと思います。私はハワイで受験しましたが、前日に下見すべく出発しましたが、色々あってなかなか見つけられずに、結局6〜7時間かけてしまいました。下見がなかったらと思うとぞっとします。行き方、コスト、時間などを事前に把握しておくことは、落ち着いて受験するのに必要だと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

皆さん書いておられますが、とにかく諦めないことです。私も何度か折れそうになりましたが、旅行などで気分転換し、モチベーションを保ちました。継続することが出来れば、必ず合格できる試験だと思います。

実際の試験に関しては、受験後自分の感触として、少し出来が悪くてもあまり落ち込む必要はないと思います。実際私もREG受験後、かなり落ち込みました。MCはできましたが、SIMは全く分からず、時間ばかりかかり、結局WCの1問目の途中で終了してしまいました。確実に落ちたと思いましたが、意外と高得点で合格しました。

また、逆もまたしかりです。AUDはかなり出来たと思いましたが、点数はそこまで良くなかったです。とにかく、全力を尽くすことが大事です。先ほど書きましたが、分からなくても、何か書くことが大事です。

TACの方々を信じて、継続して勉強ができれば必ず合格できます。

私も合格できましたので、

頑張ってください！！



自分自身への悔しさをバネに、諦めず、ねばり強く挑戦！

石原 大輔 さん

(30歳)

勤務先：丸紅株式会社にて自動車ビジネス
の事業企画を担当

2010年2月 USCPA試験合格（デラウェア州）

FAR：76点（2010年2月／2回目※2005年10月に86点でPass）

BEC：80点（2009年8月／1回目）

REG：83点（2010年2月／2回目）

AUD：76点（2010年2月／2回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

私の場合、特に大学時代に会計の勉強をしていたわけでもありませんし、卒業後も普通に就職活動をして総合商社である丸紅に就職いたしましたので、仕事を始めてからこの資格に興味を持ち、受験を決意しました。営業希望で商社に入りましたが、最初は経理関係の部署に配属されました。商社マンにとっては財務、経理、貿易実務、審査については、将来どの部署に配属されても必要不可欠な知識ですので、これらの知識を身に付けるために入社後しばらくの間は管理系の部署に配属されるケースがあります。私の場合、最初の2年間は経理関係の部署に配属され、そこで事業投資、連結経営がKEYとなること、そして会社に出資をするにしても、清算して撤退するにしても、数字を分かっているという仕事にならないということがよく分かりました。事業投資の仕事では投資先や出資先に出向してマネジメントする場合、監査の際には会計士と話をしなければいけませんし、法務関係については弁護士ともやりとりすることになりますから、ガバナンスを含め会社経営全般に関する知識が要求されます。もちろん会社の中にもそれをサポートする研修制度や組織はありますが、U.S.CPAという資格は会計の資格でありながら、ビジネス、法律、経済一般の知識を比較的に体系立てて習得できる資格です。物事を体系立てて勉強していくという機会がないと、場当たり的に対処していかなければなりませんから、U.S.CPAの資格にむけて勉強することは自分にとって必ずプラスになるだろうと思いました。皆さんそれぞれチャレンジするきっかけがあるのでしょうか、私はこの資格を取って転職しようとか、この資格を取って会計のプロになるとうようなモチベーションで受験したというよりも、自分のスキルアップということを中心に受験を決意しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

簿記3級は入社するまでに取得しなければいけないことになっていましたから、まず入社前に3級を取って、入社して経理にいた頃に簿記2級までは取りました。英語につきましても、やはり会社に入る頃に研修等も含めて勉強する機会が多かったので、TOEICは800点くらいのレベルでした。ただU.S.CPAの勉強しているとTOEICの点数はあまり関係ないかなという感じがします。学習を開始した時は金融関係の部門にいたため、会社から推奨資格として証券アナリストの資格を勉強するようアドバイスがあり、証券アナリストの勉強も同時並行して行っていました。証券分析の一次をパスしましたので、それくらいのベースでのスタートでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

仕事と並行して勉強していると、勉強のためにまとまった時間をとることが難しいので、自分にあった学習スタイルで勉強する事が大切になりますから、まずは校舎のネットワークが1番多いところしようと思っていました。TACの校舎はどこもアクセスが良いというところもポイントでしょうね。会社帰りにも寄ることができず、自宅近くにも校舎があるのは非常に便利です。アナリストの受講時代もTACで受講し、使い勝手が良いのは分かっていたので他校との比較検討ということはほとんどしませんでした。

Q4 実際にご受講いただいて良かったところを教えてください。

1番良かったのは5年間継続受講制度ですね。あれが無かったらちょっと合格は難しかったと思います。年度が変わると制度も変わっていきますし、テキストも新しくなりますので、新しい情報を常にアップデートしていくような仕組みがあることは大変助かりました。私の場合5年間フルにかけてしまいましたが、もし毎回1から通常受講料を払ってやり直していたら大変な散財になりますから、この制度があったことは非常に有り難かったですね。

Q5 受講形態について教えてください。

ずっと通学でした。通信はなかなか自分のペースが掴みにくいような気がしましたので、私の場合どんだスケジュールを埋めて、それを消化していくという方法をとりました。基本的には教室講義に出席しましたが、時間が合わなくて出席できないときにはDVDでフォローしました。土日だけだとキャッチアップしていくのがだんだん難しくなってきましたから平日も使って消化し、会社帰りは九重洲校で休日は家の近くの校舎で受講しました。平日はだいたい昼くらいまでにその日の仕事のめどをつけて6時には退社してTACに向かいました。

Q6 学習方法は？

ひたすらBeckerのCD-ROMでマルチプルチョイスの問題をリピートするという単純な方法で学習していました。FARとBECについては慣れとか計算演習に対応しやすい科目ですから、この2科目は比較的すんなりとパスすることができました。Beckerは過去問の傾向を良く捉えられていますから、本試験でもBeckerを見たことのあるような問題が結構出ていました。この試験は過去問でいける試験なのかなというのが最初の印象でした。FARとBECはそれほど苦労なくパスしてしまっただけで、Beckerを3回くらい回せば合格できる手ごたえを感じており、AUDとREGも過去問をまわっていれば大丈夫なのかなと思っていたら、これが結構痛い目に遭いました。AUDは受験後の手ごたえは良かったのにも拘わらず、最初60点くらいしか取れませんでしたので、他の受験生の体験記などをよく参考に

して、その後はテキストの読み直しに走りまわりました。AUDについては8月に不合格となった後、次の2月の受験でパスしたのですが、正直言ってこの間にはほとんどマルチプルチョイスの問題は解きませんでした。シミュレーション対策と、後はTACとBeckerのテキストの読み直しをしました。Beckerの分厚いテキストの中には色々な細かいことがたくさん出ていたので丁寧に読み込むことにしました。REGは範囲が広いので、マルチプルチョイスの問題もまわりましたが、フラッシュバックに努めました。本試験中、記憶が曖昧な時でも一か所思いつくとぱっとひらめいて解けることが多かった気がします。内田先生もとにかく目に焼き付けるとよくおっしゃっていましたから、受験の2日ぐらい前から詰め込んだのが良かったのかなと思います。この試験は出題範囲が広い割に1つのトピックに3題も4題も出題されたりしますし、まったく出ないトピックもあったりしますから、多少の漏れは仕方ないとしても、幅広い引き出しを常に出来るようにしておくという事が一番大事なのかなという気がします。とにかくTACの先生のおっしゃるとおり学習を進めたのが良かったと思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

TACのマニュアルに沿って手続し、全くトラブルはありませんでした。たまに受験票が届かないことがあるという話は聞いていましたが、私の場合手続きについてはまったく問題なかったですね。途中から韓国の会社がエージェントしているツアーが付いたグアムの週末受験を利用しましたが、快適に安心して試験を受けることができました。試験手続に煩わせられることなく、試験に集中することができました。全てグアムで受験しました。私の場合、まとめて休暇をとることが難しかったのでピンポイントで受験日を設定するしかなく、グアムで1日か2日で終わらせるという方法をとりました。一度行ってしまえば会場にも慣れますし、雰囲気も勝手も分かりますので、全てグアムで受験して良かったと思います。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

この試験に合格するためには粘りが必要です。私はFARを受験してパスした後、営業部門に興動になり大変忙しくなりました。仕事量は残業をしてコントロールできても、飲む機会が増えてきて、自分の強い意識が無ければ勉強を続けることが難しくなってきました。一度追いつかなくなるとギアが重くなってしまいます。ギア4くらいでまわっているとアクセル踏めば、すぐまた100キロ位のスピードが出るのですが、一度ギアがLOWに落ちてしまうと、再度ギアを上げるのにもすごい馬力が必要になります。大変難しいことですが、常にRUNNING-HIGHの状態に保っておかなければ勉強はなかなか続かないですね。営業部門に興動して仕事や、日々の生活に追われて何となくだらだらしている頃に、プライベートのほうでも結婚の準備で時間が全く取れない状況になってしまい、いったんギアがゼロに戻った時にFARの科目合格の有効期限である18ヶ月が過ぎて科目合格が消滅してしまいました。その時にこれ諦めたら自分はいったい今まで何をやってきたのかという悔しさが湧き上がってきて、社内でこの試験にパスしている人が何人かいる、同じ社会人として受かっている人が身近にいるのに、自分だけが落第組になるのは嫌だという意地も出てきて、今諦めたら後悔することになると思いました。結局仕事と家庭を言い訳にして諦めていた、そういう理由を自分の中に作ってしまうことが嫌でした。そこから、再度勉強を開始しました。入社して5、6年たつと、仕事のマネージメントの仕方、時間の使い方も上手になってきて生活も落ち着いてきますから、ギアを常に3か4にして常に走っている状態を作り出すことが可能だと思い、まず時間のENDを決めました。GOALを決めて逆算していくという方法に変えたいと、また仕事が忙しくなった時に自分に言い訳をして途切れてしまおうと思え、ENDを決めて自分自身を追い込みました。勉強を再開した後はずっと受験生状態で、帰れる時は必ず帰宅して勉強し、朝も6時に起きて出社前は必ず勉強するようにしました。そんな中でもやはり息が詰まってしまうので、朝はジムでマラソンをしながらテキストを読み、頭を活性化して暗記能力をアップさせました。どの試験についても言えることだと思いますが途中で諦めてしまう人は少なくないと思います。私自信も諦めてしまう可能性もあったと思います。最後は絶対合格してやろうという気持ちで突き通せるか否かの違いだと思います。その後、AUDを60点台で落ちたときに、これはどうやって受かるのかと思い悩み、ちょっとしんどい思いもしました。勉強法についてはTACの先生のおっしゃるとおりにしていけば問題ないと思います。ただ、そうはいっても点数が取れない時がこの試験には絶対にあると思います。そこは試験ですから運、不運がありますから割り切りも大切です。私は最初の勉強から6年間を経てのゴールとなりました。再受講制度も切れる直前ぎりぎり、最後の受験2科目はこれもぎりぎりの76点でのパスとなり、このときは神様が味方に着いてくれたような気持ちになりました。

Q9 現在のお仕事についてU.S.CPAで学習したことが役に立っているところはありますか？

たまたま今、仕事で米国の案件を扱っています。米国以外の案件でもBasicな部分で、役に立つところがありますが、米国の案件は特にTAX、コーポレートガバナンス、法制度面の知識がダイレクトに役に立ちます。米国の現地のCPA、Tax adviser、Lawyerを起用して仕事を進めています。勉強したこと知識が体系立てて頭に入っている分整理し易く、引き出しから取り出せる材料もありますので、業務にも十分に役に立っていると感じています。



知識を身につけることによる驚きや、ワクワク感を楽しみながらの受験勉強を！

匿名希望 さん

2010年2月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
FAR：（2009年2月／1回目）、BEC：（2009年2月／1回目）
REG：（2009年5月／1回目）、AUD：（2010年2月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

財務会計、税法、監査などについて、きちんと体系立てて網羅的に学習したいと考えた時に、財務会計、管理会計、税法、監査について実務レベルの問題が満遍なく出題されるU.S.CPA試験の学習がたいへん有効と思ひ、この資格にチャレンジしようと思ひました。実際に学習してみたところ、日本の会計、税法、会社法と米国の制度を比較しながら、制度設計の考え方の違いに触れることができたいへん興味深く学習することができました。とくに税法については、米国と日本の違いが特徴的で面白かったです。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

会計知識につきましては、簿記2級を持っていましたが、U.S.CPAの学習を始めるまではそれほど深く勉強したことはありませんでした。学習を開始する時点での英語力はTOEICで690点くらいのレベルでした。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

簿記検定でお世話になりましたので信頼していましたし、大手の会社ですからサポート体制がしっかりしているということも考慮してTACを選びました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

試験のための勉強方法、よく出題される重要論点であり復習が大事になってくる範囲、そして試験当日の時間配分、願書の提出に関する情報、例えばどのくらい時間がかかるのか、どのくらい前に申請する必要があるのかという細かい点まで的確なアドバイスをいただきまして、本当に助かりました。サポート体制がとてもしっかりしていましたし、メールでの質問に対しては講座のスタッフの方がいつも丁寧な返信をしてくださり、最後まで安心して試験に挑むことが出来ました。

講義もベテランの先生が、難しい論点を丁寧に分かり易く解説してくださるので、基本的にいつも楽しく勉強することができました。講義の中では問題演習の際の基本的な背景についても触れるので問題を解く際にも戸惑うことなく取り組めました。教材も使い易くて、さすがに会計に強いTACだと実感しました。

Beckerの教材は量も多いですし、多少難しく作られています、間違えた論点が正解するまで視点を変えて何度も出てきますので、反復練習という意味で、合格するためには欠かせないと感じました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で1年くらいかけて、AUDを除いた全体の授業を流して、まずおおまかに全体像をつかむことに集中しました。その後1年くらいで問題演習を繰り返しながら復習し、試験を受けていきました。3科目FAR、BEC、REGが合格した時点で、AUDにとりかかるとして、まず再受講制度を利用してAUDの授業をライブで受講しました。3科目は一発で合格してきたこともあり、学習速度が加速してきたのでAUDも集中して取り組みれば大丈夫だろうと、勉強開始から受験までのスケジュールを3ヶ月に設定しましたが、無残にも惨敗してしまいました。振り返ってみるとやはり最低でも4～5ヶ月は

必要だったと思います。

最初の勉強開始から全科目合格まで2年半くらいかかりました。今になって思うのは、とりあえず願書を早く出してしまえば目標が設定されますから、気持ちの整理もついてメリハリがつき、もう少し短期間で受験を終えることができたのではないかと思います。仕事との両立は簡単ではありませんが、U.S.CPA試験は自分でスケジュールをたて、組み替えることも可能ですから、仕事をしながらでも十分挑戦できる試験だと思います。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

REG、AUDなど理解と記憶の定着が必要な科目は、授業を受けた後にノートに分からない所やポイントをまとめました。さらに、問題集を解いて間違えたところをノートに書き、ノートを何度も読み返すことによって知識の定着をはかりました。

REG（特にBusiness Law）、BECなどはとにかく範囲が広いので、すべてを完璧にこなそうとせずにどんどん進めていきましたが、FARについては時間をかけてゆっくりと取り組みました。

ボリュームも多く決して楽な試験ではありませんが、最後まで諦めず、強い意志を持って継続すれば十分合格できると思います。

また、仕事を持っている人にとっては勉強時間を確保することが難しいと思います。私の場合は朝早く起きて2～3時間DVDの講義を見たり、Beckerの問題を解いて復習したりしていました。朝型か夜型かは人によってそれぞれですが、早朝は邪魔も入りませんし、夜より集中力を保てますからお勧めです。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

最初の試験はグアムで受験しました。土日の受験ツアーを利用してBECとFARを受験しましたが、海外での受験は初めての経験でしたから、初日の受験はとても疲れしました。2回目のFARの受験からは多少勝手が分かってきて、かなり気が楽になりました。REGもグアムで受験しましたが、このときは深夜1時くらいに到着し、翌日の12時からの受験というタイトなスケジュールで、あまりいいコンディションで試験に臨むことができませんでした。長時間の試験ですから途中で眠たくなってしまったりして、やはりできるだけ良いコンディションでの受験をお勧めします。

また、米国本土で試験を受験した時は、飛行時間も長いですが、体力も重要なポイントになると思いました。特に日本と昼夜が逆転するため、疲労感を伴いながらの長時間受験となりますから、時差を考慮に入れたスケジュールリングや普段からの体力づくりも大事になると思います。人によって感じ方は違うかもしれませんが、日本から1週間以内で受験し帰国するような場合には、米国本土での午後受験はやはり無理があるかと思いますが仕事の都合で休暇が十分取れない場合にはグアムで受験するのが無難でしょう。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

TACを信じて最後まで諦めずに勉強を継続することが出来れば、必ず合格できると思います。仕事をしながら勉強を続けることは容易なことではありませんし、尻込みしてしまう気持ちもわかりますが、社会人になってからの勉強は苦しいばかりではなく、やり終えたときの達成感が大きな自信に繋がります。知識を身につけることによって生じる驚きや、ワクワク感を大切に、遊びの要素を上手く組み合わせれば楽しく学習することも可能です。試験勉強を仕事の気分転換にする、ぐらゐの気持ちで勉強に臨んでみて下さい！

取れるところを確実に取る！



A.U さん

1981年生まれ
一橋大学卒業
東京大学 2007年卒業

2010年1月 USCPA試験合格（メイン州）
FAR：82点（2009年2月）、BEC：81点（2009年2月）
REG：82点（2009年5月）、AUD：76点（2010年1月）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

結婚後、生活の拠点が海外に移ったため、全世界で比較的通用する会計資格の1つであるU.S.CPAを選択しました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

学習開始時にはTOEICは900点台だったと思います。会計知識に関しては、大学及び大学院の専攻が会計だった為、そこそこはありました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

理由は2つあります。まずは、Beckerと提携しているからです。もう1つの理由は、海外在住者の為にも細かなサービスが考えられているな、と感じたからです。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

基本的な内容を優秀な講師陣から日本語で教えていただき、その後Beckerで自習を繰り返すことが出来たことでしょうか。私個人の意見として、日本語を母語とする人には最も効率的なカリキュラムだと思います。更に、ポイントは、優秀な講師陣から教えていただく、という所です。内田先生、杉浦先生の授業は、真剣に聞いているだけで知識が自然と蓄積そして整理されていきました。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

最初の2ヶ月だけ名古屋校のビデオブースに通っていました。その後、引越しをしてからは通信に切り替えました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

① 全般的なこと

授業を受けた後、授業内容に該当するTAC問題集をすぐに解いていました。その後、1科目全部終わってからBeckerを解き始めました（一回転だけ）。試験2週間前からは、Beckerのランダム100問を120分でセットして毎日解いていました（90%以上を目指す！）。Simulation問題も試験2週間前から解き始めました。

② FAR及びBEC

「全般的なこと」に書いた内容だけを繰り返し行いました。FARに関しては、基本的仕訳を忘れないように、Simulation対策テキスト（薄いけど、必要部分は網羅していて使い易い！）を繰り返し読んで復習しました。

③ REG

* 税法

授業を聞いた後は、内田先生のまとめノートのみをベースとして学習を進めました。まとめノートを完全に理解して頭に入れていれば、Beckerも95%解答できるようになっているはずでした。

* BL

杉浦先生の授業を聞いて理解した後、自分でまとめノートを作成していました。このまとめノートを繰り返し暗記して、Beckerを解きました。間違えた箇所や、知らない箇所は、まとめノートに書き足しました。

④ AUD

基本的には、FARの勉強方法と同様です。Beckerで間違えた箇所をSimulation対策テキストに書き込んで、繰り返しSimulation対策テキストを読んでいました。暗記だけで解答できる問題は出来て当たり前、絶対に落とさないようにしっかりSimulation対策テキストを読み込んで暗記しました。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

試験中に変な問題が出てきて焦ったり、迷ったりすることが毎回ありました。その時、内田先生が講義中におっしゃっていた「取れるところを確実に取る！」というフレーズを自分に言い聞かせて前に進みました。そのフレーズが、どれだけ試験中の私の心の支えになったことやら（笑）。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

2つあります。厳しい言葉になりますが、私自身、自分に言い聞かせてきた言葉です。まず、自分に言い訳をしないで下さい。試験を途中で諦める事は簡単です。諦める理由を探す事も簡単です。でも、言い訳をし始めたならそこで終わりです。高いお金を払ってU.S.CPAを目指そうとしたその瞬間のモチベーションを最後まで失わないで下さい。次に、最後まで自分が選んだ予備校（TAC）及び教材（Becker）を信じて下さい。他教材に手を出すのは、はっきり言ってお金と時間の無駄です。TACとBeckerを信じて浅く広く、そして効率良く学習して合格をもぎ取って下さい。



他の会計士との差別化を目指して

福留 聡 さん

慶応義塾大学 商学部 1999年3月卒業
 公認会計士3次試験 2006年3月合格
 勤務先：監査法人 トーマツ～あずさ監査法人
 2010年7月1日～公認会計士・税理士・米国公認会計士（ワシントン州）
 福留聡事務所開業

2010年2月 USCPA試験合格（ニューハンプシャー州）
 FAR：78点（2008年8月／1回目）
 BEC：82点（2009年11月／2回目）
 REG：78点（2009年11月／2回目）
 AUD：77点（2010年2月／3回目）

Q1 USCPA試験にチャレンジしようと思われた理由やきっかけは？

2006年3月に公認会計士に合格しましたが、その頃から会計士の数が増えることは分かっていたから、プラスアルファになるような力をつけたいと考えていました。会計＋英語能力、会計＋税法、会計＋ITの知識があれば、他の会計士に比べてより広い業務領域を担当できますし、転職するときにも自分の選択肢が広がりますから、当初から会計士に合格したら1年間は英会話学校に通い詰めて、その後U.S.CPAの勉強することに決めていました。

Q2 学習開始時の英語力・会計知識は？

学習開始時の英語能力はTOEICで600点程度でした。U.S.CPAの勉強を始める前、READINGは350点ぐらいでしたが、現在は400点を超すようになりました。U.S.CPAは、かなりの英語の量をこなさなければ受からない試験ですので、READINGの力や、英語を読むスピードは確実にアップしましたね。

会計知識につきましては公認会計士3次試験合格、税理士試験簿記論、財務諸表論、日商簿記1級、全経簿記上級取得していましたし、監査法人に勤務しておりましたのでアドバンテージのある状態で学習をスタートすることができました。

Q3 TACをお選びいただいた理由は？

日本の公認会計士試験の2次試験、3次試験でお世話になって、実績があったということで信頼していました。会計士合格者割引という制度もあって、他社よりお得ということもあり、迷うこともなくすぐにTACに決めました。

Q4 TACの講座でよかったところ（講師、教材、カリキュラムなど）

講師、教材、カリキュラムの全てにおいて、日本の公認会計士試験のノウハウを利用しているため、会計士受験生にとってたいへん使い易い教材、カリキュラムとなっていると感じました。日本語と英語両方の表記になっていますし、日本と米国の会計の違いを含めてバランス良く説明しており、特にJ-GAAPとUS-GAAPの違いについてとても理解しやすかったです。講師も日本の公認会計士とU.S.CPAの方、両方が教えていらっしゃるため、日本の公認会計士試験の知識を活かしつつ、U.S.CPA試験に適用できる知識、応用力がつかため、日本の公認会計士試験合格者に特にお勧めしたいです。

Q5 通学・通信どちらで学習されましたか？合格までの学習期間は？

DVD通信で学習しました。合格までの期間は2年強です。学習時間は平日平均1時間～2時間、休日は3時間～5時間程度です。但し昨年は内部統制監査、四半期レビュー導入期で特に忙しかったため、繁忙期はまったく勉強する時間をとれないという日も結構ありました。本当に忙しい期間は勉強の時間を捻出するのはかなり苦労し、最初の受験から次の受験までに1年3カ月くらいかかってしまいました。

Q6 合格までの学習法（全般的なこと／科目別）

私は結局3回の受験で全科目合格しました。最初は4科目全て受けてFARのみ合格、2回目は残り3科目受けてREGとBECに合格。最後は残り1科目AUDを受験して全科目合格できました。仕事をしながら勉強している人は、計画的に2科目ずつ受験し、合計2回で合格を目指す方が近道かもしれませんね。

1回目の受験は、日本の公認会計士試験で勉強しないFARの公会計、REG、BECのBUSINESS STRUCTUREを中心にポイントを絞って、その他は問題集を一通り解いただけで試験に臨みました。会計と監査はプロとして普段の業務で携わっていますし、会計士試験2次3次でも結構良い点で通ったので、ちょっと油断しておる所になった部分はありますね。それが合格までに時間を要した要因だったかもしれません。2回目の受験はREGを中心に勉強しました。BECはITをほぼ捨てていたので、計算問題を力を入れて学習し、REGとAUDについては2回目初めてSIMULATIONテキストも解きました。また、2回目から

オプション購入したFLASH CARDを使用しました。これはたいへんよくまとまっけていて、テキストを数回転した後で使用すると知識がしっかり定着するので、お勧めの教材です。3回目のAUDを受験する際はこのFLASH CARDを何回転もしました。3回目はAUDだけでしたので、初めてBECKERの問題集にも手をつけ2回転しました。監査は実務で8年弱やっていたから結構自信もあって、それほど勉強時間を費やさなかったために、AUDは2回も落ちてしまいましたので最後の受験は集中して勉強しました。BECKERの問題集は紙のものを使い、PCでの練習はしませんでした。試験はPCですが、普通にPCを使えばまず操作に迷うことはないと思います。初めてBECKERを見たときは電話帳みたいに厚くて驚きましたが、全く同じ問題や近い問題が多数出ますが、時間があればもちろん手をつけることをお勧めしますが、とにかく量が多いです。時間のない人はTACの問題集とテキストを数回転させるだけで合格出来ると思います。SIMULATION対策テキストはやはり点が上がるというより、慣れるために1回か2回解けば十分だと思いました。WRITTEN COMMUNICATIONはテキストや問題集、普段の実務で持っている知識をフルに活用して試験では埋められるだけ埋めていたのでテキストの読み込みや理解能力、基本的なWRITING SKILLが問われていると思います。

Q7 受験手続・受験時のエピソードなど

日本ではきっちり事務処理をするのが当たり前ですが、米国では日本のようにはいかないということを痛感しました。最初は学歴審査機関のWESに学歴審査依頼しましたがニューハンプシャーに送付してくれないために、再度料金を払って送付してもらったり、NTSがなかなか届かないためメールで早く送ってもらうように催促したり、SCORE REPORTが届かないためメールで催促したりと、様々なハプニングがありました。英語能力の問題もあったと思いますが、本当に受験手続には苦労しました。TACのU.S.CPA講座のスタッフの方によく電話やメールをして助けていただきました。

Q8 これから合格を目指す方へのアドバイス

勉強を始めた頃、U.S.CPA試験の世間一般に言われている難易度や合格率に惑わされて、油断していたと思います。私は三大難関試験と言われている国家公務員I種試験経済職に大学4年の時に1回目で合格し、公認会計士2次試験は2回目で合格し、短答式試験はほぼ満点で合格しましたが、U.S.CPA試験は結局全科目合格までに3回もかかってしまいましたし、得点も合格点ぎりぎりでした。合格した感想としてU.S.CPA試験は受験者のレベルが非常に高く、高い英語能力が必要のため、他の難関試験に劣らず相当難しい試験だと思えます。その高い意識をもって勉強を始めていただきたいと思います。知識があるからといって甘く見てはいけませんね。また、米国人受験者は監査法人に入社して実務経験を積んでからU.S.CPA試験の勉強するため、AUDITのレベルが非常に高いと思います。3回目にAUDを受験した時は最後の1科目だったので集中して学習に取り組み、BECKERも2回転したこともあり、かなり余裕を持って合格出来ると思ったのですが、結果は77点とぎりぎりに近い合格でしたので皆様にはAUDITにはかなり時間を費やして、理解重視の勉強を心がけていただきたいと思います。

日本人は米国人より計算が得意ですのでFARとBECは受かりやすいと思いますが監査とREGについて結構苦戦するのもかもしれませんね。REGとAUDは、どちらかというと文章中心ですし、WRITTEN COMMUNICATIONなどは思ったよりも点数がとれないので、英語能力を含めて、REGとAUDは力をいれて勉強しないとなかなか厳しいのかなと思います。

監査法人での仕事は激務ですから働きながらこの資格をとるのは、相当辛いです。TOEIC700～900点ぐらいとっていないと英語力については厳しいものがあり、世間でいわれているようなレベルの試験ではありません。ただし勉強を通じて、英語能力の向上は勿論のこと、US-GAAPの知識を取得することができますし、勉強したことが実務で即役立つ。私が今所属しているのは国内事業部ですが、IFRS関連の仕事の際には、英語でREPORTを書いたりしますし、IFRSはUS-GAAPとも近いので会計の知識を含めて、英語のREPORTING等、実際の仕事の現場でもかなり役立っていますね。また、国内事業部では日本の公認会計士とU.S.CPA両方持っている人はたいへん少なく希少価値ですから、せいかくのアドバンテージを活かして広い分野で活躍したいと思っています。